



June 2023
NHK Symphony Orchestra, Tokyo



終演時のカーテンコールを撮影していただけます



コンサート終演時、舞台上のカーテンコールをスマートフォンやコンパクトデジタルカメラなどで撮影していただけます。

SNSでシェアする際には、ハッシュタグ「#N響」 「#nhkso」の追加をぜひお願いいたします。

ほかのお客様の映り込みにはご注意ください。

※撮影はご自席からとし、手を高く上げる、望遠レンズや三脚を使用するなど、周囲のお客様の迷惑となるような行為はお控えください

「フラッシュ」オフ設定

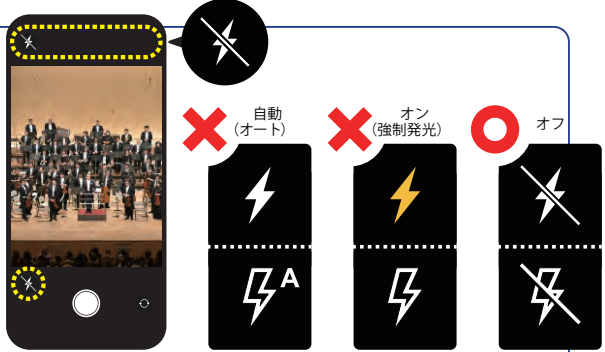
確認のお願い

撮影前に、スマートフォンのフラッシュ設定が「オフ」になっているかご確認をお願いいたします。

スマートフォンのフラッシュをオフにする方法

多くの機種では、カメラ撮影の画面の四隅のどこかに、フラッシュの状態を示す⚡(カメラマーク)を含むアイコンが表示されています。

これをタップすることで、「オン(強制発光)」「自動(オート)」「オフ」に変更できます。



インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。ご鑑賞いただいた公演のご感想や、N響の活動に対するみなさまのご意見を、ぜひお寄せください。ご協力をお願いいたします。

こちらのQRコードからアンケートページへアクセスできます



<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

詳しくは49ページをご覧ください



お客様へのお願い



公演中は携帯電話、時計のアラーム等は必ずお切りください



演奏は最後の余韻までお楽しみください



場内での録画、録音、写真撮影は固くお断りいたします(終演時のカーテンコールをのぞく)



私語、パンフレットをめくる音など、物音が出ないようにご配慮ください



演奏中の入退場はご遠慮ください



補聴器が正しく装着されているかご確認ください



発熱等の体調不良時にはご来場をお控えください



適切な手指の消毒、咳エチケットにご協力ください



「ブラボー」等のお声掛けをされる際は、マスクの着用にご協力をお願いいたします

PHILHARMONY

CONTENTS

JUNE 2023

6

- 3 **特集** **最も心に残ったN響コンサート&ソリスト 2022-23 ファン投票**
- 8 [N響ガイド]および「WEBチケットN響」のサービス移行のお知らせ
- 9 [公演プログラム] **Aプログラム**
- 14 [公演プログラム] **Bプログラム**
- 19 [公演プログラム] **Cプログラム**
- 22 [シリーズ] **N響百年史** | 第38回 | **新響西洋人化計画** 片山杜秀
- 27 2023年9月定期公演のプログラムについて——公演企画担当者から
- 29 2023-24定期公演プログラム
- 35 チケットのご案内(定期公演 2023年9月~2024年6月)
- 36 特別公演/各地の公演
- 42 Information/お詫びと訂正
- 43 NHK交響楽団メンバー
- 44 特別支援・特別協力・賛助会員
- 48 曲目解説執筆者
- 49 みなさまの声をお聞かせください!
- 50 NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO Members

Artist Profiles & Program Notes

- 51 Program A
- 55 Program B
- 58 Program C
- 60 The Subscription Concerts Program 2023-24
- 63 役員等・団友

Special Thanks




NHK SYMPHONY ORCHESTRA T O K Y O

特別支援

岩谷産業株式会社

 三菱地所株式会社

 みずほ銀行

公益財団法人 渋谷育英会

With Special Support of

Iwatani Corporation

Mitsubishi Estate Co., Ltd.

Mizuho Bank, Ltd.

Shibuya Scholarship Foundation

NHK交響楽団は上記の各社から特別支援をいただいております。

2020年2月、ウィーン・コンツェルトハウスにて
©Lukas Beck

最も心に残った N響コンサート& ソリスト 2022-23

2022年9月～2023年6月の
定期公演を対象に

ファン投票受付中

新型コロナウイルス感染症の拡大以後、N響では数多くの公演がキャンセルされ、また開催できたとしても海外からの渡航制限により出演者やプログラムの変更を余儀なくされる状況が続く中、恒例のファン投票「最も心に残ったN響コンサート&ソリスト」は、2020年、2021年と2年続けて実施を見合わせざるを得ませんでした。

しかし昨年9月に始まった「2022-23シーズンN響定期公演」は、皆さまのご声援に支えられ、すべてのコンサートを無事に開催することができる見込みです。このかけがえのない思い出を分かち合うため、「最も心に

残ったN響コンサート&ソリスト」を今回より定期公演のシーズンに合わせる形で再開させていただきます。

2022-23シーズン(2022年9月～2023年6月)のN響定期公演の中から最も心に残ったコンサート3つとソリスト1名(団体)をお選びいただけます。コメントやメッセージも大歓迎。コメントやメッセージをN響ホームページや『フィルハーモニー』に掲載させていただいた方には、N響グッズを進呈いたします。

結果発表は11月上旬の予定です。皆さまの投票を心よりお待ちしております。

Aプログラム | NHKホール

2022年9月

9/10回、11回

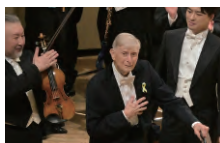
指揮：ファビオ・ルイーゼ
ソプラノ：ヒブラ・ゲルズマワ
メゾ・ソプラノ：オレシア・ペトロヴァ
テノール：ルネ・バルベラ
バス：ヨン・ヴァン・チヨル
合唱：新国立劇場合唱団
・ヴェルディ／レクイエム



2022年10月

10/15回、16回

指揮：ヘルベルト・ブロムシュテット
・マーラー／交響曲 第9番



2022年11月

11/12回、13回

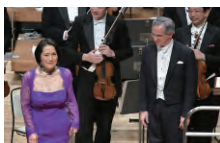
指揮：井上道義
・伊福部 昭／シンフォニア・タブカーラ
・ショスタコーヴィチ／交響曲 第10番



2022年12月

12/3回、4回

指揮：ファビオ・ルイーゼ
メゾ・ソプラノ：藤村実穂子
・ワーグナー／ウェーゼンドクの5つの詩
・ブルックナー／交響曲 第2番
(初稿／1872年)



2023年1月

1/14回、15回

指揮：トウガン・ソエフ
ピアノ：ハオチエン・チャン
・ブラームス／ピアノ協奏曲 第2番
・ベートーヴェン／交響曲 第4番



2023年2月

2/4回、5回

指揮：尾高忠明
チェロ：宮田 大
・尾高尚忠／チェロ協奏曲
・バヌフク／カティンの墓碑銘
・ルトスワフスキ／管弦楽のための協奏曲



2023年4月

4/15回、16回

指揮：パーヴォ・ヤルヴィ
・R. シュトラウス／「ヨセフの伝説」から交響的断章
・R. シュトラウス／アルプス交響曲



2023年5月

5/13回、14回

指揮：下野竜也
ヴァイオリン：バイバスクリデ*
・ラフマニノフ／歌曲集 作品34
—「ラザロのよみがえり」(下野竜也編)、
「ヴォカリーズ」
・グバイドゥーリナ／オッフエルトリウム*
・ドヴォルザーク／交響曲 第7番



2023年6月

6/10回、11回

指揮：ジャンドレア・ノセダ
ピアノ：ペフド・アブドゥライモフ
・プロコフィエフ／
交響組曲「3つのオレンジへの恋」
・プロコフィエフ／ピアノ協奏曲 第2番
・カゼッラ／歌劇「蛇女」からの
交響的断章(日本初演)



Bプログラム | サントリーホール

2022年9月

9/21(木)、22(木)

指揮：ファビオ・ルイーゼ
ヴァイオリン：ジェームズ・エーネス

- ・ベートーヴェン／ヴァイオリン協奏曲
- ・ブラームス／交響曲 第2番



2022年10月

10/26(木)、27(木)

指揮：ヘルベルト・ブロムシュテット
ピアノ：オリム・ストネン

- ・グリーグ／ピアノ協奏曲
- ・ニルセン／交響曲 第3番「広がり」



2022年11月

11/23(木祝)、24(木)

指揮：レナード・スラットキン
ヴァイオリン：レイ・チェン

- ・ヴォーン・ウィリアムズ／「富める人とラザロ」の5つのヴァリアント
- ・メンデルスゾーン／ヴァイオリン協奏曲
- ・ヴォーン・ウィリアムズ／交響曲 第5番



2022年12月

12/14(木)、15(木)

指揮：ファビオ・ルイーゼ
ピアノ：河村尚子

- ・グリカ／歌劇「ルスランとリュドミラ」序曲
- ・ラフマニノフ／ピアノ協奏曲 第2番
- ・ドヴォルザーク／交響曲 第9番「新世界から」

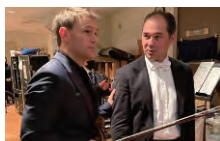


2023年1月

1/25(木)、26(木)

指揮：トウガン・ソヒエフ
ヴィオラ：アミハイ・グロス

- ・バルトーク／ヴィオラ協奏曲(シェルイ版)
- ・ラヴェル／「ダフニスとクロエ」組曲 第1番、第2番
- ・ドビュッシー／交響詩「海」



2023年2月

2/15(木)、16(木)

指揮：ヤクブ・フルジャ
ピアノ：ピョートル・アンデルシェフスキ*

- ・ドヴォルザーク／序曲「フス教徒」
- ・シマノフスキ／交響曲 第4番「協奏交響曲」*
- ・ブラームス／交響曲 第4番



2023年4月

4/26(木)、27(木)

指揮：パーヴォ・ヤルヴィ
ピアノ：マリー-アンジュ・グッチ*

- ・シベリウス／交響曲 第4番
- ・ラフマニノフ／バガニエーニの主題による狂詩曲*
- ・チャイコフスキー／幻想曲「フランチェスカ・ダ・リミニ」



2023年5月

5/24(木)、25(木)

指揮：ファビオ・ルイーゼ
ホルン：福川伸陽

- ・ハイドン／交響曲 第82番「くま」
- ・モーツァルト／ホルン協奏曲 第3番
- ・ベートーヴェン／交響曲 第6番「田園」



2023年6月

6/21(木)、22(木)

指揮：ジャンナ・ドリア・ノセダ
ヴァイオリン：庄司紗久香*

- ・バッハ(レスピーギ編)／3つのコラール
- ・レスピーギ／グレゴリオ風協奏曲*
- ・ラフマニノフ／交響曲 第1番



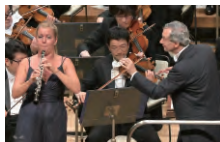
Cプログラム | NHKホール

2022年9月

9/16(金)、17(土)

指揮：ファビオルイージ
オーボエ：エヴァ・スタイナー

- ・R. シュトラウス / 交響詩「ドン・ファン」
- ・R. シュトラウス / オーボエ協奏曲
- ・R. シュトラウス / 歌劇「ばらの騎士」組曲

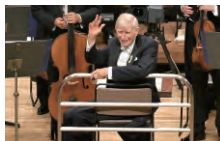


2022年10月

10/21(金)、22(土)

指揮：ヘルベルト・ブロムシュテット

- ・シューベルト / 交響曲 第1番
- ・シューベルト / 交響曲 第6番

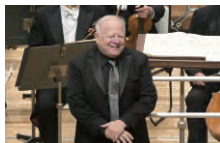


2022年11月

11/18(金)、19(土)

指揮：レナード・スラットキン

- ・コーブランド / バレエ音楽「アパラチアの春」(全曲)
- ・コーブランド / バレエ音楽「ロデオ」(全曲)



2022年12月

12/9(金)、10(土)

指揮：ファビオルイージ

- ・モーツァルト / 交響曲 第36番「リンツ」
- ・メンデルスゾーン / 交響曲 第3番「スコットランド」



2023年1月

1/20(金)、21(土)

指揮：トゥガン・ソヒエフ

- ・ラフマニノフ / 幻想曲「岩」
- ・チャイコフスキー / 交響曲 第1番「冬の日の幻想」



2023年2月

2/10(金)、11(土祝)

指揮：ヤクブ・フルシャ

- ・バーンスタイン / 「ウエスト・サイド・ストーリー」から シンフォニック・ダンス
- ・ラフマニノフ / 交響的舞曲



2023年4月

4/21(金)、22(土)

指揮：パーヴォ・ヤルヴィ

- ・ルーセル / 弦楽のためのシンフォニエッタ
- ・フランク / シンフォニエッタ
- ・イベル / 室内管弦楽のためのディヴェルティスマン



2023年5月

5/19(金)、20(土)

指揮：ファビオルイージ

ピアノ：バスカル・ロジエ

- ・サン・サーンス / ピアノ協奏曲 第5番「エジプト風」
- ・フランク / 交響曲

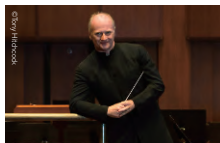


2023年6月

6/16(金)、17(土)

指揮：ジャンドレア・ノセダ

- ・ショスタコーヴィチ / 交響曲 第8番



投票について

対象公演

2022-23シーズン N響定期公演(2022年9月~2023年6月)
(A・B・Cプログラム 各9演目計27演目/各演目2公演ずつ開催)。
各公演の詳細は4ページ以降をご参照ください。

投票資格

2022-23シーズンN響定期公演(2022年9月~2023年6月)をひとつでも聴いたことがある方。会場でお聴きになった方のみならず、テレビやラジオでご視聴になられた方もご投票いただけます。

投票方法

以下のQRコードを読み取るかURLを入力し、N響ホームページの投票ページにアクセスして、最も心に残ったコンサート3つとソリスト1名(団体)を選んでご投票ください。投票理由についてのコメントやN響へのメッセージもご記入いただけます。

ご投票はこちらから

https://www.nhkso.or.jp/news/MICS2022_23.html



郵便でもご投票いただけます。

必要事項(住所、名前、電話番号、メールアドレス[任意]、最も

心に残ったコンサート[3つまで]、最も心に残ったソリスト[1人(団体)のみ、]メッセージ[任意]をご記入の上、下記までお送りください。

〒108-0074 東京都港区高輪2-16-49 NHK交響楽団
最も心に残ったN響コンサート&ソリスト係

コメントやメッセージをホームページ、フィルハーモニーに掲載させていただいた方にはN響グッズを進呈します。

締切

2023年9月29日(金) ※郵便投票分は当日消印有効

(投票上の注意)

- ※ 投票はおひとり様1回をお願いします。同一の方からとみられる複数投票については無効票とさせていただきます。
- ※ 投票に際していただいたコメントなどは、N響ホームページや『フィルハーモニー』など、当団の媒体でご紹介させていただく場合がございます。

結果発表

[中間発表] 2023年9月上旬をめぐりにN響ホームページなどで「最も心に残ったコンサート」のみ途中経過の順位を発表する予定です。

[完全版] 2023年11月上旬にN響ホームページおよび『フィルハーモニー』2023年11月号などで、投票していただいたみなさまのコメントとあわせて発表いたします。

個人情報の使用目的について

- ※ 今回の投票で収集する個人情報のうち、氏名(ペンネーム可)は当団の媒体(ホームページ、フィルハーモニー)でコメントと共に紹介する場合がございます。また、氏名[ペンネーム可]およびメールアドレスは、コメントをホームページおよびフィルハーモニーに掲載させていただく場合に、取材や確認のためにご連絡させていただくために、そしてN響グッズの送付先をお伺いさせていただくために使用させていただきます。またその他の個人情報(投票内容、年齢、性別など)については、個人が特定されない形で統計的に処理した上で投票結果として発表させていただく場合があります。
- ※ 取材や確認のために編集部(一般財団法人NHK財団/株式会社アルテスパブリッシング)よりメールなどでご連絡させていただく場合があります。
- ※ 投票結果発表後、今回収集した個人情報は合理的な範囲で速やかに破棄します。今回のアンケートで記載いただいた個人情報を編集部(一般財団法人NHK財団/株式会社アルテスパブリッシング)以外の第三者に提供する事はありません。

この件についてのお問い合わせは、下記までお願いいたします。

公益財団法人NHK交響楽団 最も心に残ったN響コンサート&ソリスト係
〒108-0074 東京都港区高輪2-16-49
TEL: 03-5793-8120

「N響ガイド」および「WEBチケットN響」のサービス移行のお知らせ (2023年6月29日～)

この度、よりよいお客様サービス提供のために

チケット販売サービスについて、びあ株式会社と提携いたします。

これに伴い、チケット販売システムをリニューアルいたします。

新サービスへの移行は2023年6月29日(木)からとなり、

「N響ガイド」および「WEBチケットN響」は以下の通り変わります。

	6/27(火)まで	6/29(木)から
WEBチケットN響	https://ticket.nhksso.or.jp	https://nhksso.pia.jp ご利用には改めて利用登録が必要となります(6/1～受付開始)
N響ガイド(電話営業のみ)	TEL 03-5793-8161 ・営業時間：11:00am～5:00pm ・定休日：土・日・祝日／ 定期公演Aプログラムの翌月曜日	TEL 0570-02-9502 ・営業時間：10:00am～5:00pm ・定休日：土・日・祝日

- ・6/28(水)はシステム移行のためN響ガイドを臨時休業とし、WEBチケットN響でのチケット販売も休止させていただきます。
- ・主催公演開催日は曜日に関わらず営業開始時刻～開演時刻の営業となります。
- ・発売初日の土・日・祝日は営業開始時刻～3:00pmの営業となります。

重要 | 新サービスへの移行に伴う、一部サービス内容変更のお知らせ

- 新WEBチケットN響のご利用には改めて利用登録が必要です。6/1から事前登録を受付中です(ご予約等のサービス開始は6/29～)。
- WEB受付、電話受付ともに、決済引|取方法や各種手数料が変更となります。詳しくはN響ホームページをご覧ください。
- 発売開始日はWEB・電話ともに午前10時からの受付となります(6/29以降)。

お客様から寄せられたご要望にお応えします

- ユースチケットがWEBチケットN響でもご購入いただけるようになります(7月上旬～)。利用にあたっては事前にユース登録が必要です(ユース登録済みの方は改めて「ユース登録」の必要はありません)。詳しくはN響ホームページをご覧ください。
- 1回券はeチケット(電子チケット)がご利用いただけるようになります。詳しいサービス内容は、新WEBチケットN響内「ご利用ガイド」でご確認ください。

PROGRAM

A

第1986回

NHKホール

6/10 土 6:00pm

6/11 日 2:00pm

指揮

ジャンドレア・ノセダ

ピアノ

ベフゾド・アブドゥライモフ ※当初発表の出演者から変更となりました。

コンサートマスター

川崎洋介◆

◆川崎洋介:ニューヨーク出身。6歳より父・川崎雅夫からヴァイオリンの手ほどきをうけ、ジュリアード音楽院ではD.ディレイ、H.カンらに師事。日本センチュリー交響楽団、サイトウ・キネン・オーケストラなど日米のオーケストラでコンサートマスターを歴任し、現在はカナダのオタワ・ナショナル・アーツ・センター管弦楽団のコンサートマスターを務めている。

プロコフィエフ

交響組曲「3つのオレンジへの恋」

作品33bis [16']

- I おどけもの
- II 地獄の場面
- III 行進曲
- IV スケルツォ
- V 王子と王女
- VI 逃亡

プロコフィエフ

ピアノ協奏曲 第2番ト短調 作品16

[32']

- I アンダンティーノ
- II スケルツォ:ヴィヴァーチェ
- III 間奏曲:アレグロ・モデラート
- IV 終曲:アレグロ・テンペストーソ

— 休憩 (20分) —

カゼツラ

歌劇「蛇女」からの交響的断章

(日本初演) [27']

[第1組曲]

I アルティードル王の夢の音楽

II 間奏曲

III 戦士の行進

[第2組曲]

I シンフォニア

II 前奏曲

III 戦いとフィナーレ

※演奏時間は目安です。

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきます。ご協力をお願いいたします。

詳しくは49ページをご覧ください



こちらのQRコードから
アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

Artist Profiles

ジャンンドレア・ノセダ (指揮)



1964年、イタリア・ミラノ生まれ。現在、“大統領のオーケストラ”と呼ばれるワシントンD. C. のナショナル交響楽団の音楽監督と、ルイージの後任としてチューリヒ歌劇場の音楽総監督を兼任し、コンサートとオペラの両分野で活躍しているマエストロである。マリンスキー歌劇場の首席客演指揮者、スペインのカダケス管弦楽団とBBCフィルハーモニックの首席指揮者、トリノ王立歌劇場の音楽監督などを歴任。BBCフィルを指揮したレスピーギ、カゼッラ、ダルラピッコラなど、注目すべきCDを数多くリリースし、首席客演指揮者を務めているロンドン交響楽団を指揮したロシアの作曲家のディスクも高く評価されている。レアなレパートリーも積極的に取り上げ、スコアに込められた機微を鮮やかに掘り起こしたうえで、しなやかな歌心とドラマを存分に引き出す手腕には脱帽するほかない。

ノセダは、2005年に初めてN響に客演して以来、たびたび共演を重ねてきた間柄である。今回のプログラムも、カゼッラの《歌劇「蛇女」からの交響的断章》の日本初演があるかと思えば、生誕150年の記念年を迎えたラフマニノフの意欲作《交響曲第1番》、そしてショスタコーヴィチの《交響曲第8番》など、いかにもノセダらしい多彩な演目が並んでいるのが魅力的だ。ノセダとN響の意欲的な取り組みに大いに期待したい。

[満津岡信育 / 音楽評論家]

ベフゾド・アブドゥライモフ (ピアノ)



1990年、ウズベキスタン共和国タシケント生まれ。5歳でピアノを弾き始め、8歳の頃、ウズベキスタン国立交響楽団との共演でデビュー。タシケントのウスベンスキー国立中央学院でタマラ・ポポヴィチのもとで学んだのち、ウズベキスタン人で2001年ヴァン・クライバーン国際ピアノ・コンクール優勝者のスタニスラフ・ユデニチのもと、アメリカのパーク大学・国際音楽センターけんさんで研鑽を積んだ。

2009年のロンドン国際ピアノ・コンクール優勝を機に国際的なキャリアをスタート。2012年にプロコフィエフの《ピアノ・ソナタ第6番》ほかを収録したアルバムを、2014年には同《ピアノ協奏曲第3番》ほかを収録したアルバムをリリースした。これまでに、フィルハーモニア管弦楽団、ロサンゼルス・フィルハーモニック、サンフランシスコ交響楽団、バリ管弦楽団、ロイヤル・コンサートヘボウ管弦楽団などと共演。

N響との共演は、アシュケナーズの指揮でラフマニノフを演奏した2014年以来9年ぶり。今回は得意とするプロコフィエフから、《ピアノ協奏曲第2番》を届ける。

[高坂はる香 / 音楽ライター]

18世紀ヴェネツィアの劇作家カルロ・ゴツィ(1720~1806)は、イタリアの伝統的な喜劇「コメディア・デラルテ」を下敷きに、民話やオリエントの物語を題材とした10編の寓話劇を書いた。『トゥーランドット』をはじめとする奇想天外な物語は、時代や国を超えて多くの作曲家を魅了し、本公演の作曲家も、その魅力に惹きつけられた2人だ。セルゲイ・プロコフィエフ(1891~1953)のモダニズム、アルフレード・カゼッラ(1883~1947)のファンタジー。オーケストラの機能を最大限に生かした彼らの作品に、カゼッラ再発見も含め、情熱の指揮者ノセダは、どのようにアプローチするのだろうか。

プロコフィエフ

交響組曲「3つのオレンジへの恋」作品33bis

1918年、プロコフィエフはロシア革命の混乱を逃れて日本経由でアメリカに渡った。ニューヨークに落ち着くと新天地での成功に野心を燃やし、ピアニスト、作曲家として自身を売り込んでいく。《歌劇「3つのオレンジへの恋」》は、シカゴ・オペラの総監督カンパニーの依頼で作曲された。ゴツィの同名の寓話劇(1761)を演出家メイエルホリドがロシア語に翻案した戯曲をもとに、台本もプロコフィエフ自身が手がけた。物語は劇中劇のかたちをとり、憂鬱症の笑わない王子が偶然転んだ魔女を笑って呪いをかけられ、3つのオレンジを探す旅に出かけ、3番目のオレンジの中から出てきた王女と結ばれる、というもの。オペラは、上演延期を経て、1921年12月に初演された。

プロコフィエフはオペラ初演後、6曲から成る交響組曲を編んだ。第1曲〈おどけもの〉物語を舞台上で観劇しながら王子に加勢する、おどけものたちの素材をつないでいく。ドタバタした雰囲気は、このオペラの性格をよく表している。第2曲〈地獄の場面〉2人の魔術師がカルタ遊びをする(第1幕第2場より)。第3曲〈行進曲〉プロコフィエフらしい^{かいぎやく}諧謔的な音楽。ピアノ編曲版で有名。第4曲〈スケルツォ〉王子一行は翻弄される(第3幕第2場より)。第5曲〈王子と王女〉東洋風の旋律で愛を語り合う(第3幕第3場より)。第6曲〈逃亡〉悪者一味は策略に失敗して逃げ出し、疾走するトッカータで結ばれる(第4幕第2場より)。

作曲年代	[オペラ]1919年 [組曲]1919~1924年
初演	[オペラ]1921年12月30日、シカゴ、作曲者の指揮 [組曲]1925年11月29日、パリ、セルゲイ・ウーセヴィツキーの指揮
楽器編成	フルート2、ピッコロ1、オーボエ2、イングリッシュホルン1、クラリネット2、バス・クラリネット1、ファゴット3(コントラファゴット1)、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ1、グロッケンシュピール、シロフォン、シンバル、サスペンデッド・シンバル、タムタム、トライアングル、大太鼓、小太鼓、タンブリン、ハーブ2、弦楽

プロコフィエフ

ピアノ協奏曲 第2番 ト短調 作品16

プロコフィエフはサンクトペテルブルク音楽院在学中からモダニズムの旗手として注目を集めていた。《ピアノ協奏曲第2番》は学生時代の1912年に着手され、翌年4月に完成。4楽章構成の協奏曲は全楽章が短調で書かれ、プロコフィエフ自身の演奏を前提にしていた。「信じがたいほど難しく、無慈悲なまでに人を疲れさせる作品」と自ら評したように、初演は賛否両論が巻き起こり、「異常な音」と拒否する批評家もいれば、「10年も経てばヨーロッパ中の聴衆が作曲家を褒めそやすだろう」と評価する者もいた。鋭い不協和音、大胆な跳躍音程、野性的なリズム、鋭角的な表現など、モダニズムの語法とともに帝政末期のロシアを思わせる妖しさも漂う。ロシア・バレエ団の主宰者ディアギレフも終楽章の民謡風の主題を気に入り、バレエ化を真剣に考えるほどだった。

だが、この初演版の楽譜はロシア革命の混乱で消失してしまう。現行版は1923年に作曲家自身によって復元され、その際にピアノと管弦楽どちらにも手が入られ、対位法的な書法を「いくらか複雑に」、形式ばらず「優美なもの」へと改訂された。

第1楽章(アンダンティーノ、ト短調)。夢見のような第1主題とリズムカルな第2主題が示され、ピアニスティックで華やかな長大なカデンツァの後、第1主題が静かに回想される。

第2楽章(スケルツォ：ヴィヴァーチェ、ニ短調)。プロコフィエフの音楽を特徴づける要素のひとつであるトッカータ風の軽快な音楽。独奏ピアノは常にオクターヴのユニゾンで演奏する。

第3楽章(間奏曲：アレグロ・モデラート、ト短調)。ファゴットやテューバ、低弦を響かせたオーケストラと独奏ピアノが絡みながら濃厚な表情を作り上げる。

第4楽章(終曲：アレグロ・テンペストーソ、ト短調)。目まぐるしく動く主題はピアノを打楽器的に扱い、ゆるやかな民謡風の主題はロシア民謡の牧歌的な性格が表れている。

作曲年代	1912年末～1913年4月。1923年に改訂
初演	1913年9月5日(旧ロシア暦では8月23日)、作曲家自身のピアノ、アレクサンドル・アスラノフ指揮、バヴロフスクにて
楽器編成	フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、テューバ1、ティンパニ2、サスペンデッド・シンバル、シンバル、小太鼓、大太鼓、タンブリン、弦楽、ピアノ・ソロ

カゼツラ

歌劇「蛇女」からの交響的断章(日本初演)

今年生誕140年のカゼツラは、レスピーギやマリピエロとともにイタリアの「80年代」と呼ばれる作曲家である。代々チェリストの家系に生まれ、1896年に渡仏。パリ音楽院でフォーレに師事し、20世紀初頭の百花繚乱のパリの音楽界から多くの刺激を受けた。ド

ビュッシーの音楽に憧れ、ストラヴィンスキーやファリャとも交流をもち、第1次世界大戦勃発で帰国したあとは、イタリア現代音楽協会を発足させ、同時代の音楽の普及に努めた。その作風は、1920年代に新古典主義に到達し、晩年はファシズムに傾倒していった。

《歌劇「蛇女」》は、ゴツツィの同名の寓話劇(1762)を題材に、イタリアの劇作家チェーザレ・ヴィコ・ロドヴィチ(1885~1968)の台本により、1928年から1931年にかけて作曲された。ワーグナーの最初期の《歌劇「妖精」》も同じ寓話劇から着想を得ているが、カゼッラは、妖精ミランダが蛇に変身するエピソードをそのまま残した。全体はプロローグと3幕から成る。テプリス国の王アルティドールは、素性を尋ねないことを条件に妖精ミランダと結婚した。しかし結婚8年目の終わりに王が素性を尋ねてしまったことで、ミランダは2人の子供とともに姿を消してしまう。アルティドールは、彼女を探し出したが、大臣の裏切りを知り、ミランダは愕然とする王の前で蛇に姿を変える。アルティドールが魔法の試練を乗り越えると、蛇を閉じ込めた墓が崩れ落ち、人間の姿となったミランダと再会する。1932年にローマで初演されたのち、カゼッラは2つの組曲を編んだ。前半(第1組曲)はハンガリーの指揮者フリッツ・ライナーに、後半(第2組曲)はイタリアの指揮者ベルナルディーノ・モリナーリに献呈された。前半(第1組曲)の3曲は切れ目なく演奏される。

【第1組曲】〈アルティドール王の夢の音楽〉(アンダンテ)。チェロに支えられ、オーボエが神秘的なまどろみの旋律を奏でる。やがて、フルートとトランペットのコラル風の旋律へと移る。〈間奏曲〉(アンダンテ・モデラート)。トランペットとトロンボーンの弱音のファンファーレが3回登場し、徐々に高まる低音弦楽器と交替する。〈戦士の行進〉(テンポ・ディ・マルチャ)。行進曲の力強いリズムにのせて音楽はモノクロからカラーへと転じ、冒頭のモチーフは出現するたびにクリアになっていく。二長調となった後半は、ハリウッド映画風の壮大な音楽が広がる。

【第2組曲】〈シンフォニア〉(アレグロ・ヴィヴァチッシモ)。華やかな導入に続いて、リズムカルな主題が示され、オーボエが新しい主題を歌い出し、木管楽器による第3主題が加わる。管楽器が豊かな音色で活躍し、カゼッラのオーケストレーションの手腕が発揮される。〈前奏曲〉(レント・マ・ノン・トロppo)。ホルンで反復される4音モチーフはミランダの嘆きを表す。嘆きが高まり頂点に達すると、再び音楽は静まる。〈戦いとフィナーレ〉(アレグロ・ヴィヴァチッシモ)。妻を取り戻すために王は試練に挑む。第1組曲の〈戦士の行進〉のモチーフも現れ、最後は勝利の行進曲で堂々と結ばれる。

作曲年代	[オペラ] 1928~1931年 [組曲] 1932年
初演	[オペラ] 1932年3月17日、ローマ、ローマ歌劇場
楽器編成	フルート3(ピッコロ1)、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン1、クラリネット2、小クラリネット、バス・クラリネット1、ファゴット3、コントラファゴット1、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ1、大太鼓、シンバル、サスペンデッド・シンバル、小太鼓、中太鼓、トライアングル、タムタム、タンブリン、カ斯塔ネット、ラチェット、グロックenschüピール、シロフォン、ハーブ1、チェレスタ1、弦楽

PROGRAM

B

第1988回

サントリーホール

6/21 水 7:00pm

6/22 木 7:00pm

指揮 ジャナンドレア・ノセダ | プロフィールはp. 10

ヴァイオリン 庄司紗矢香*

コンサートマスター 郷古 廉

バッハ(レスピーギ編)

3つのコラール[12']

- I きたれ、異教徒の救い主よ
- II 私の魂は主をあがめ
- III 目を覚ませと呼ぶ声が聞こえ

レスピーギ

グレゴリオ風協奏曲*[33']

- I アンダンテ・トランクイロ
- II アンダンテ・エスプレッシーヴォ・エ・ソステヌート
- III 終曲(アレルヤ):アレグロ・エネルジコ

— 休憩(20分) —

ラフマニノフ

交響曲 第1番 二短調 作品13[44']

- I グラーヴェー アレグロ・マ・ノン・トロポ
- II アレグロ・アニマート
- III ラルゲット
- IV アレグロ・コン・フォーコ

※演奏時間は目安です。

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきたく、ぜひお声をお寄せください。ご協力お願いいたします。

詳しくは49ページをご覧ください



こちらのQRコードから
アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

庄司紗矢香 (ヴァイオリン)



©Keiichi Shirogane

昨秋もラハフ・シャニ指揮イスラエル・フィルハーモニー管弦楽団の定期公演でシベリウスの《協奏曲》を弾くなど、トップステージで音楽的な存在感を際立たせているヴァイオリニストだ。レスピーギの《グレゴリオ風協奏曲》も2021年夏、ロンドンのBBCプロムスで弾いている。

イタリア・シエナのキジアーナ音楽院でウート・ウーギ、リッカルド・プレンゴーラに、イスラエルでシュロモ・ミンツに、ドイツ・ケルン音楽大学でザハール・ブロンに学び、1999年、ジェノヴァで開催された第46回バガニーニ国際ヴァイオリン・コンクールで史上最年少優勝を果たした。これまでにズービン・メータ、ユリー・テミルカーノフの指揮で数多く協奏曲を披露。ジャンンドレア・ノセダともローマ聖チェチーリア国立アカデミー管弦楽団などで共演している。CDも枚挙にいとまがなく、イタリアのピアニスト、ジャンルカ・カシオーリとはベートーヴェンのヴァイオリン・ソナタ集を制作。2022年にはカシオーリのフォルテピアノを交え、古典派時代の演奏法にならない、ガット弦、クラシック弓でモーツァルトのソナタを録音した。

N響定期公演への出演は2018年6月(アシュケナージの指揮、オラフソンのピアノとの共演によるメンデルスゾーン《ヴァイオリンとピアノのための協奏曲》)以来となる。

[奥田佳道 / 音楽評論家]

Program Notes | 伊藤制子

ラフマニノフは、今年、生誕150年のメモリアルイヤーにあたる。《交響曲第1番》は、初演失敗後、時を経て復活再演された初期の代表作で、ロシア民謡風のフレーズなども含まれており、ラフマニノフが自身のルーツにも関心を寄せていたことがうかがえる。管弦楽書法の名手レスピーギは、バッハを、そしてグレゴリオ聖歌の世界を20世紀に装いも新たに蘇らせた。こういった過去への眼差しに根ざした作品を名匠ノセダの指揮で味わう定期公演である。

バッハ(レスピーギ編)

3つのコラール

オットリーノ・レスピーギ(1879~1936)の名は、その名作「ローマ三部作」の作曲家として知られているのではないだろうか。壮麗で高度な管弦楽の名手としての顔に加えて、レスピーギは過去の音楽に独自の視点を加えて編曲、翻案したことで知られている。イタリア音楽の豊かな伝統の上で、いかなる創作ができるかとレスピーギ自身が自問した

結果ともいえよう。彼はローマのサンタチェチーリア音楽院の作曲科教授、院長を歴任したが、当地の図書館で膨大な過去の音楽資料に向き合う機会を得たのも功を奏した。

レスピーギが手掛けた編曲作品は未完や試作も含めて数多く存在し、モンテヴェルディやパイジェッロ、チマローザらのオペラからバッハ、ヴィヴァルディ、タルティーニ、ラモーといった作曲家の諸作品にまで及ぶ。その中には、本日の定期公演後半で取り上げられるラフマニノフ作品の編曲もある。《3つのコラル》はバッハのコラル前奏曲にもとづく編曲作品で、1930年に完成され、同年11月13日にトスカニーニ指揮のニューヨーク・フィルハーモニー交響楽協会会で初演された。コラル前奏曲とは、プロテスタント教会でコラルを歌う前に演奏される短いオルガン作品をさし、バッハは数十曲書いている。レスピーギの編曲は、荘厳な第1曲〈きたれ、異教徒の救い主よ〉(BWV659)では弦とファゴットによるシンプルなものになっており、第2曲〈私の魂は主をあがめ〉(BWV648)では、木管の対話を浮かび上がらせている。第3曲〈目を覚ませと呼ぶ声が聞こえ〉(BWV645)の原曲は、バッハが自身の《カンタータ第140番》から編曲した作品。よく知られた明朗な旋律が登場するので、聞き覚えのある方もいるのではないだろうか。レスピーギは金管を巧みに使い、華やかなオーケストラの響きを作り出している。

作曲年代	1930年
初演	1930年11月13日、トスカニーニ指揮のニューヨーク・フィルハーモニー交響楽協会
楽器編成	オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、コントラファゴット1、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、弦楽

レスピーギ

グレゴリオ風協奏曲

レスピーギは、ヴァイオリン、ヴィオラ奏者としての顔をもち、一時サンクトペテルブルクで弦楽器奏者として活動していたこともあった。当地でリムスキー・コルサコフに管弦楽法を学んだことが、レスピーギが以後作曲するオーケストラ書法に少なからぬ影響をもたらしたと思われる。《グレゴリオ風協奏曲》はレスピーギのヴァイオリン協奏曲の中で、演奏機会に比較的恵まれている一曲である。イタリアでの協奏曲の系譜は、タルティーニ、パガニーニ、ヴィオッティらいわゆるヴィルトゥオーゾ系が少なくないが、レスピーギはそうした技巧面を強調するようなスタイルを指向していなかった。彼の協奏曲はソロの妙技を引き立たせるというよりも、ソロとオーケストラとが一体となった響きの織物のような様相を呈している。

1921年に書かれた《グレゴリオ協奏曲》は、レスピーギの過去の音楽への傾倒をうかがい知ることのできる1曲でもある。初演は1922年、旧知のヴァイオリン奏者マリオ・コルティのソロ、バルナルディーノ・モリナーリの指揮によりローマで行われた。初演に反響

はさほどなかったものの、同年出版され、ピアノ伴奏版も作成された。全体は3楽章からなり、ソロは宗教的感触に満ちており、全体は厳かで物憂い色調が濃厚である。第1楽章では教会旋法を用いたオーボエによる主題が提示され、中間部でもこの主題が展開される。再現部ののち、ソロによるカデンツァが入り、切れ目なく次の楽章に入る。第2楽章では敬虔な雰囲気もあるヴァイオリン・ソロ主題が軸になっており、大伽藍のオルガンのような響きにも注目したい。「アレルヤ」の副題のついた第3楽章は Rond 形式による。金管、そしてティンパニの活躍も目立ち、独奏とティンパニが巧みな掛け合いを繰り広げる部分も登場する。

作曲年代	1921年
初演	1922年ローマ。マリオ・コルティのソロ、ベルナルディーノ・モリナーリの指揮による
楽器編成	フルート2、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン1、クラリネット2、バス・クラリネット1、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、ティンパニ1、チェレスタ1、ハープ1、弦楽、ヴァイオリン・ソロ

ラフマニノフ

交響曲 第1番 二短調 作品13

セルгей・ラフマニノフ(1873~1943)の家系は15世紀にまでさかのぼることのできる名門で、曾祖父や祖父、そして両親も音楽をたしなんでいた裕福な家柄だったものの、セルゲイの父の時代には没落していった。生地は鐘で有名なノヴゴロドの近郊セミョーノヴォ。ラフマニノフは幼い頃からロシアの文化的象徴である鐘の響きの中で育った。息子の才能を見抜いた母によって早くから充実した教育を受けたラフマニノフは、モスクワ音楽院を1892年に卒業。すでに《オペラ「アレコ」》や《幻想小曲集》で若き作曲家として注目されていた彼が、《交響曲第1番》に着手したのは、1895年1月のことであった。初演は1897年3月15日にサンクトペテルブルクで行われたが、作曲家キューイによる厳しい評が出るなど、大失敗となった。その真相について、指揮を担当したグラズノフの失態に起因する説があるが、音楽学者の一柳富美子氏は自著で、サンクトペテルブルク音楽界がラフマニノフに冷淡だったことが原因ではないかという説を紹介している。当時のサンクトペテルブルクでは、裕福な材木商で楽譜出版や演奏企画のスポンサーとして名を馳せていたベリャーエフを中心とした派閥が楽界を牛耳っており、すでに海外でも注目されていたラフマニノフが疎まれ、初演失敗は既定路線だったのではないかという説だ。作曲者のショックは大きかったものの、この交響曲への深い愛着があったようで、ピアノ四手版もみずから用意していた。その後総譜が失われ、作曲者の死後、パート譜から復刻された版による再演が行われたのは、1945年10月17日のことだった。

初演の失敗はともかく、ラフマニノフらしい叙情味に、ロシア正教の旋法や民謡などを思わせる民族的な色彩が加わったこの交響曲は、復活再演後、広く知られるように

なった。

全体は4つの楽章からなる。グラーヴェーアレグロ・マ・ノン・トロツポ、ニ短調、4/4拍子の第1楽章は、荘重な短い序奏に、ソナタ形式の主部が続くが、第1主題にはグレゴリオ聖歌《怒りの日》風のモチーフが見られる。展開部の対位法的書法にも注目である。第1楽章序奏部のモチーフが、以後の楽章冒頭でも回想のように姿を見せる。 Rond形式による第2楽章は、アレグロ・アニマート、ヘ長調、3/4拍子。第3楽章ラルゲットは変ロ長調、3/4拍子の3部形式で、ラフマニノフらしい息の長い甘美な旋律を織り込みながら、時折感情のたかぶりを表すかのように、展開する。第4楽章は、アレグロ・コン・フォーコ、ニ長調、4/4拍子で、3部形式。冒頭のファンファーレに象徴されるように、若きラフマニノフの情熱がみなぎるフィナーレである。

作曲年代	1895年
初演	1897年3月15日、サンクトペテルブルク。グラズノフの指揮による
楽器編成	フルート3 (ピッコロ1)、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ1、大太鼓、小太鼓、シンバル、サスペンデッド・シンバル、トライアングル、タンブリン、タムタム、弦楽

PROGRAM

C

第1987回

NHKホール

6/16 金 7:30pm

6/17 土 2:00pm

指揮

ジャンンドレア・ノセダ | プロフィールはp. 10

コンサートマスター

川崎洋介 | プロフィールはp. 9

[開演前の室内楽(Cプログラム限定)]

16日(金)6:45pm～/17日(土)1:15pm～

ヴァイオリン:横溝耕一、森田昌弘 ヴィオラ:中村翔太郎 チェロ:藤森亮一

シヨスタコーヴィチ/弦楽四重奏のための2つの小品(I エレジー/II ポルカ)

※演奏はご自身の座席でお楽しみください。

※演奏中の客席への出入りは自由です。

シヨスタコーヴィチ

交響曲 第8番 ハ短調 作品65 [60']

I アダージョ

II アレグレット

III アレグロ・ノン・トロツポ

IV ラルゴ

V アレグレット

※ この公演に休憩はございません。あらかじめご了承ください。

※ 演奏時間は目安です。

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきます。ご協力をお願いいたします。

詳しくは49ページをご覧ください



こちらのQRコードから
アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

ロシアによるウクライナ侵攻を受けて、昨年、日本中でチャイコフスキーの《序曲「1812年」》の演奏を自粛する動きが起きたことは記憶に新しい。他方、古典オペラの新演出が作品のイメージを刷新するように、演奏を通して歴史的所産である音楽作品の意味や意義を読み直すことも可能だ。作曲から80年の時を経た今、独ソ戦の記憶を刻み込んだドミトリ・ショスタコーヴィチ(1906~1975)の《第8番》は、我々に何を語りかけるのだろうか。

ショスタコーヴィチ

交響曲 第8番 ハ短調 作品65

世界的な反ファシズム闘争の象徴となった《交響曲第7番「レニングラード」》(1941)から2年、《第8番》はスターリングラード戦の勝利を起点に、ソ連軍が攻勢に転じた1943年夏に約2か月で完成された。出来栄えに満足したショスタコーヴィチだったが、周囲が“《第7番》の続編”に寄せる期待からは大きく乖離していたようだ。初演は冷たい反応で迎えられたのみならず、戦後における冷戦の始まりを背景に、ソ連国内のイデオロギー統制を再開したジダーノフ批判では、悲観主義・形式主義ゆえに演奏禁止処分を受けてしまう。ショスタコーヴィチの親友だった音楽学者ソレルチンスキーですら、“印象は絶大だが、その音楽は《第5番》や《第7番》に比べて格段に難しく辛辣だ”と語ったほどだった。

作曲者の表現によれば、全体は、1)アダージョ、2)行進曲、3)行進曲、4)葬送行進曲、5)パストラレであり、第3楽章のトッカータ、第4楽章のパスサリアを含め、バロック的な《ピアノ五重奏曲》(1940)の様式に近い。他方、全楽章は序奏動機によって統一され、第3楽章から第5楽章まで続けて演奏されるなど、交響曲としての一貫性や物語性も強固だ。強い印象を残すのは、両端楽章に登場するトゥッティの強烈なクレッシェンドであり、これがフィナーレを破局に導いたあと、音楽はひっそりと消えていく。当時、報道を通して戦地の惨状を頻繁に見ていたショスタコーヴィチにとって、これ以外の結論は不可能だったろう。いかに社会が戦意高揚を煽^{おほ}っても、真実を直視する芸術家は存在する。その勇気こそが、この力強い作品を生み出したことを忘れてはならない。

第1楽章 アダージョ、ハ短調、4/4拍子、序奏と第1主題(冒頭は《第7番》の有名な“侵攻のエピソード”と同じ)、5/4拍子による第2主題によるソナタ形式。展開部では叙情的な主要主題が金管中心の狂暴な行進曲と化し、胸を扶^{たす}めような壮絶なドラマを繰り広げる。強烈なクレッシェンドで序奏が再現されたあと、緊迫した空気を一瞬で鎮静するイングリッシュ・ホルンのソロが効果的である。

第2楽章 アレグレット、変ニ長調、4/4拍子、スケルツォ風の行進曲。パロディを得意とした若き日のショスタコーヴィチが面目躍如する。楽章冒頭はリストの《ピアノ協奏曲第1番》、行進曲の主題前半は《ビア樽ポルカ》(戦前ドイツではフォックストロット《ロザムンデ》として愛好された)の仄めかし、主題後半はショスタコーヴィチ自身が1938年に作曲したオリジナル版《ジャズ組曲第2番》〈スケルツォ〉の転用である。他方、中間部の半音ずつ上下に広がっていく無機質な主題は、後年、作曲者が頻繁に用いることになる(《24の前奏曲とフーガ》フーガ15番、《交響曲第13番「バビ・ヤール」》など)。滑稽だった行進曲が次第に狂躁の度を増し、やがて荒れ狂うフガートに至る再現部は、陽気な日常がいつの間にか恐ろしいファシズムへと変わっていく現代社会の見事なカリカチュアとなっている。

第3楽章 アレグロ・ノン・トロoppo、ホ短調、2/2拍子、3部形式。主部は機械的なトッカータであり(類似のアイデアは《交響曲第4番》第3楽章に見られる)、これによって基本動機を変形した主題が爆弾さながらに下行する。独奏トランペットで始まる中間部は、軍隊行進曲または「ピオニール」(ソ連時代の少年団)のグロテスクなパロディだろうか。切迫したクレッシエンドが切れ目なく次楽章を導き出す。

第4楽章 ラルゴ、嬰ト短調、4/4拍子。殺伐としたトッカータにつづくのはパッサカリア形式の葬送行進曲であり、11回目の変奏のあと澄み切ったハ長調に到達する。

第5楽章 アレグレット、ハ長調、3/4拍子。ファゴットが朗らかに Rond 主題を提示するが、展開部では大規模なフガートに発展し、やがて悲劇を呼び覚ますように第1楽章序奏が回帰する。次第に室内楽的なテクスチュアに移行しながら主題が再現され、最後は基本動機をつぶやきながら彼方へ消え行くように結ばれる(マーラー《大地の歌》やショスタコーヴィチ《交響曲第4番》のエンディングを彷彿とさせる)。

作曲年代	1943年7月2日から9月9日
初演	1943年11月4日、エフゲーニ・ムラヴィンスキー指揮、ソ連国立交響楽団、モスクワにて
楽器編成	フルート4(ピッコロ2)、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン1、クラリネット2、Esクラリネット1、バス・クラリネット1、ファゴット3(コントラファゴット1)、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ1、トライアングル、タンブリン、大太鼓、小太鼓、サスペンデッド・シンバル、シンバル、タムタム、シロフォン、弦楽

N響百年史

第三十八回 — 新響西洋人化計画

片山杜秀 — Morihide Katayama

二〇二六年のN響創立百周年に向け、NHK-FM「クラシックの迷宮」のパーソナリティとしてもお馴染みの思想史研究者で、音楽評論家の片山杜秀さんが、時代背景とともにN響の歴史をひもときます。コロナ事件で決定的となった近衛秀磨と新響楽員たちの確執。近衛は上海租界のオーケストラに目を付けます。

上海租界に一流オーケストラあり

東アジアに西洋人の演奏家を集めたシンフォニー・オーケストラがかつてあった。東支(東清)鉄道交響楽団がそうである。帝政ロシアが北満洲に築いた事実上の植民都市、ハルビンを本拠とした。

ハルビン発展のきっかけは日清戦争だ。その戦争のあとロシアは、ともに日本を脅威とすることで利害の一致があると考えられた清朝と、秘密外交協定、いわゆる露清密約を結んだ。それによって、満洲の領域に幅広く軍隊の駐留権やら、鉄道の敷設と運営の権利やら、治外法権やらを認めさせた。建前は清朝の対日防衛にロシアが協力するということだったが、本音はむしろ、ロシアによる満洲全土の植民地化であろう。シベリア鉄道につなげて、北の満洲里から南の大連まで鉄道を引っ張ることが、植民地化事業の中核を成した。それが東支鉄道だ。建設の一大拠点となったハルビンにはロシア人が大量に移入し、ロシア風の都市景観が創出され、市民の娯楽にはオーケストラやオペラやバレエが欠かせなくなった。日露戦争でロシアが日本に敗れても、南満洲から後退しただけで、ハルビンを中心とする北満洲はロシアの勢力圏内に残った。ロシア革命でソヴィエト連邦が成立しても、その後に長い内戦期があり、ハルビンや東支鉄道も帝政ロシア残存勢力にしばらく支配されていた。ゆえにハルビンは、ロシア革命から逃れてきた一流の音楽家や富裕な聴衆の溜まり場として、日本の元号でいえば大正から昭和初期に、帝政ロシアの最後の光芒といった具合の、独特な芸術文化都市となった。そんなハルビンの音楽生活の中心には、革命前のロシア各地の一流どころのオーケ

ストラのメンバーを主体とする東支鉄道交響楽団が存在した。以前、触れたとおりである。

だが、手練れの西洋人々によるプロフェッショナルな交響楽団は、東アジアにハルビンのほか、もうひとつあった。上海にだ。工部局楽隊、あるいは工部局交響楽団と呼ばれた。ハルビンはロシアの独占的進出地だったが、上海といえば、1840年からのアヘン戦争とその事後処理を定めた1842年の南京条約以来、清朝に勝利した英国の権益が拡張され、租界、つまり外国人居留地が形成されてきたところである。やがて米国やフランス、ドイツなども加わり、ずっと遅れて日本も入ってきて、租界は大規模化し、複雑化し、ついには北側の英米中心の共同租界と南側のフランスだけのフランス租界とに分断され、北側の共同租界のほうには英米がリードして議会や役所や警察が独自に組織されるにいたった。フランスもフランス租界に行政組織を作った。そうやって租界は普通の外国人居留地というような性格からどんどん離れて、いかにも不平等条約的な空間に変貌していった。

上海パブリック・バンドから 上海工部局交響楽団へ

たとえば共同租界だと、借地人会議という名の議会の議員は居留民から選ばれ、役所は居留民からの納税によって成り立ち、役所の予算案は借地人会議できちんと審議されるのだった。まるで独立国だ。その上海の共同租界の行政政府の名を工部局といった。ハルビンは何よりもまず鉄道本位の都市であり、そこを仕切るのは鉄道組織であったが、上海は港湾都市であり、港湾設備、それから居留民の生活を支えるインフラストラクチャーを整えるのが役所の仕

事の第一義となる。結局、工事だ。土木建設だ。ゆえに居留地の行政政府の全体的名称も工部局がふさわしい。

その工部局が居留民の娯楽教養のための楽団を運営していた。1879年からのことである。はじめはパブリック・バンドと呼ばれていた。野外での演奏を多く行う管楽アンサンブルが基本で、必要に応じて弦楽器も加わる。レパートリーはワルツやポルカやマーチが主。日露戦争後から昭和初期にかけての日本の陸海軍軍楽隊のありようにも似ている。そんなバンドの傾向が日露戦争後、変わってくる。ルドルフ・ブックというドイツ人の指揮者を得て、楽団員にもドイツ人が多く加わるようになり、ベートーヴェンやシューベルトの交響曲、リストの交響詩、ワーグナーのオペラからの管弦楽曲などをレパートリーにする。趣味は高級化し、演奏は高度化した。パブリック・バンドは20世紀初頭には交響楽団化していたといつてよい。

けれど、第1次世界大戦・ロシア革命期に、高級化と高度化の方向は同じながら、また変わる。まずドイツが英仏の敵国になったので、ドイツ人はいったん上海から追い出され、近場のドイツの植民都市、青島へと立ち退かされた。ドイツ人の穴を埋めてゆくのはイタリア人やロシア人である。イタリアからは第1次世界大戦後の社会混乱もあってアジアに新天地を求める演奏家たちが出てくる。ロシア人が上海に来るのはもちろんロシア革命のせいだ。シベリア鉄道からハルビンや大連を経て、上海にたどり着くロシア人の波があった。その中に優れた演奏家たちもいた。オーケストラの指揮者には、イタリアの作曲家ズガンバーティの弟子のマリオ・パーチが就任し、パブリック・バンドの名も1922（大正11）年、工部局交響楽団と改まる。そうしてウェーバーやシューベルトもだが、プッチーニ

やレスピーギ、あるいはチャイコフスキーやムソルグスキーやリムスキー・コルサコフがさかんに取り上げられるようになった。

工部局交響楽団の危機

でも工部局交響楽団は順風満帆とはなかなかいかない。1920年代後半から風向きが怪しくなってくる。ひとつは租界の住民たちの趣味の変化だ。東京や大阪だとモボやモガ、すなわちモダン・ボーイやモダン・ガールの時代なのだ。早い話がジャズとダンスと映画である。真面目な交響楽団が流行らなくなってくる。そこに政治の混乱が加わる。辛亥革命で清朝が倒れて以来の中国は、国民党と地方軍閥、さらに共産党が加わっての合従連衡と分裂抗争の繰り返しだ。1927(昭和2)年には蔣介石率いる国民党が国共合作路線を放棄して上海で共産党への大弾圧を行った。暴力と破壊が絶えない。租界の外国人たちの事業にも元気がなくなる。そこに1929(昭和4)年からの世界大恐慌。1930(昭和5)年から翌年にかけて、東京で新交響楽団の定期会員の減少に悩まされるのと同じ事態が、当然、上海でも起きてくる。東京では近衛家と日本放送協会がそれでもオーケストラを支えているが、上海の工部局はどうか。租界の居留民の税金からの補助でもっているのが工部局交響楽団である。チケット代だけでは最初から賄えない。オーケストラの存続はこの頃、借地人会議で毎年問題になっていた。居留民の趣味というわけでは必ずしもなくなっているだろうオーケストラを、中国の混乱、上海の政情不安定、世界経済の危機といった何重苦に直面し、税収減による緊縮財政をはからねばならぬときに、なおも抱えておらねば

ならぬのか。オーケストラを潰したい議員の理屈である。1931(昭和6)年の春夏には、ついに工部局交響楽団を解散させるしかないと思われる局面が訪れた。せっかく腕前は良いのに。上海に流れてこざるを得なかった優秀な西洋人の楽員たちが、名匠パーチのもとでよく鍛えられ、ヨーロッパのそれなりのオーケストラと比べても遜色はないくらいなのに。

このとき東京の近衛秀麿はもう実現不可能とあきらめていた昔のアイデアにふたたび取り憑かれた。工部局交響楽団の様子を、上海の音楽マネージャー、アウセイ・ストロークからの情報で知ったのである。雑誌『月刊楽譜』の1931(昭和6)年第8号はこう伝える。「近衛秀麿氏の新交響楽団は、近来の不況に祟られて定期公演の聴衆会員の激減により維持困難なること、一方楽員の技量が行詰つたと云ふ名の下に、近衛氏と感情上の円満を欠いてゐた伊藤昇、池譲等幹部楽員二十三名を誡首したが、爾来今日までの定期公演には曲目に依つては臨時に楽員の補充をさへ行ひつた程とて、残留の三十余名の楽員では今後の演奏に差支へる状態とて、近衛氏が何処から之を補充し維持してゆくかは可なり注目されてゐる」

前回触れたコロナ事件についてのくだりだ。近衛か反近衛の楽団員か、どちらが追い出されるかというドタバタの中、1931年の春楽季の定期演奏会を6月17日のオール・バートーヴェン・プロで終えた。指揮は近衛。メインは《交響曲第5番》。その前の《ヴァイオリン協奏曲》のソリストにはヨーゼフ・シゲティを迎えるという話題のコンサートで、シゲティによる一切の虚飾を排した名演に聴衆が凜然となったと伝えられるが、その日、すでに楽団には大勢のエキストラが必要だった。秋楽季は9月下旬に始まる。早く欠員を補充しなければならぬ。補充にあ

たつての近衛の基本方針は「よりよき楽団」を作ること尽きる。つまりもっと上手にするために名手を集める。コンサートマスターには林龍作や鈴木鎮一しんいちを招きたい。近衛自らがどこにでも交渉に向かうという。だが、一夏の間には20人も30人も腕利きをいきなり捕まえられるのか。『月刊楽譜』の記事はこう続く。「上海工部局が独露の楽人を集めて組織してゐるムニシパル・シンフォニーは上海方面に於ける唯一の優秀な管弦楽団として知られてゐたが、最近工部局の予算減額から惜しくも解散の悲運ほうちやくに逢着したので、我が楽壇に著名な大音楽家を紹介して来た、同地の音楽マネージャー、ストローク氏の手により、同楽団の技量優秀な楽員二十余名を選抜し、九月早々来朝せしめ、新交響楽団と合流せしめ、秋の楽季から活躍することになった」

もう決まったこととして報道している。「合流」とはこの場合、一時的合流の意ではない。工部局交響楽団のメンバーをまとめて新交響楽団に入団させるとの意であろう。「新響は上記二十三名の整理を行ふたが、上海より楽人を迎ふる為には、更に第二次の楽員整理が行はれるものと観られてゐる。とまれ従来ぜんの全楽員共和制の新交響楽団は近衛氏の独裁制によつて陣容全く更新せられ秋の楽季に見ゆることになった訳である」

優秀な外国人演奏家を最大限雇用して、そのぶん、日本人演奏家の椅子を減らす。近衛の理想のオーケストラはこうして完成する。本当だろうか。いわゆる飛ばし記事ではないのか。いや、そんなことはあるまい。なにしろ往時を知る人々がまだまだ大勢、現役であった時代に編纂された『NHK交響楽団五十年史』にも採用されているストーリーなのだから。このとき新交響楽団、のちのNHK交響楽団は、約半数の楽団員を西洋人としていた可能性があったのだ。

新響を西洋人によるオーケストラに!?

振り返れば、大正の終わりに山田耕筰は、日本の都市生活にプロ・オーケストラを根付かせるには、日本の演奏家ばかりに頼ってではどうしても埒らちが明かないと考えた。日本人もそれなりにうまくなってきているのだが、主にSPレコードの鑑賞を通じて泰西の一流どころの演奏に親しみ、どんどん耳の肥えてしまう日本の聴衆には、どこまで行っても満足を与えられない。そこで、主にはハルビンから東支鉄道交響楽団のメンバーを招聘しょうへいし、西洋人と日本人の混成による臨時交響楽団を立ち上げて、山田と近衛秀麿とで指揮をして全国をツアーして話題を盛り上げ、聴衆の心に火を付けて、楽壇も広く社会も盛り上げたところで、一気呵成いつきかせいに常設の交響楽団を誕生させよう計画した。それが1925(大正14)年の日露交驛こうかん(交歓)交響管絃楽演奏会になった。期待どおりの大成功だった。なぜか。メンバーの半数がロシア人などの一流の西洋人演奏家で外来オーケストラに近いとも思われる響きがしたので、日本の聴衆が酔いしれてしまったからだ。そのあと、東支鉄道交響楽団のメンバーを多数引き抜いて東京に半分は西洋人のオーケストラを常設団体として立ち上げる。山田も近衛もその他大勢の楽壇人たちもそれを願った。日本の聴衆は日本人のオーケストラを求めているのではない。ただ上手い管弦楽団を生で聴きたいだけなのだ。そこで求められる上手さとはSPレコードで聴く欧米の一流交響楽団に負けないくらいの上手さであるに越したことはなく、それは当時の日本人の楽団員だけではいくら努力しても無理がある。山田も近衛も純血主義にこだわっていなかった。お客がたくさん付けばいい。ハルビンから何十人か

を東京に移住させれば、日本のプロ・オーケストラの技量も人気もたちどころに確立する。

しかし、その夢は頓挫した。亡命ロシア人などの大量雇用など、経済的にも政治的にも社会的にも、日本交響楽協会とそこから離れてできた新交響楽団の誕生期には実現不能だった。指揮者兼トレーナーとしてヨーゼフ・ケーニヒやニコライ・シフェルブラットを連れてくるのが関の山だった。ならば日本人のメンバーの腕を着実にあげていくしかない。近衛も新交響楽団を率いて以来、そう思っていたはずなのだ。ところが1930(昭和5)年のひさびさのヨーロッパ行きが忘れていた理想主義に火を付け、現実主義を駆逐してしまっただけでなく、一刻も早く欧米並みにしなくては我慢ならなくなった。

それは近衛のわがままともいえなかった。むしろ現実を顧みてそうせずにはおれなくなった面がある。不況で聴衆の財布のひもがきつくなってきたら、せっかく上積みしてきた新交響楽団の定期会員数もたちまち減少に転じているではないか。上手でないと思われているから聴き手に簡単に見捨てられてしまう。近衛としても屈辱である。楽団の急速な技量の向上以外に選択肢は残されていない。そのためにはメンバーの入れ替えも辞さず。コロナ事件を喚起した楽団員が大幅に抜けた。近衛にとってこれはチャンスだ。ハルピンの敵を上海で討つということか。その頃の近衛と日本放送協会の関係はきわめてよい。上海の楽団員の給料も決して高

くはない。上海からの西洋人演奏家に一流日本人演奏家を加えて大幅に補強し、演奏水準を上げられれば、必ず定期会員は増える。オーケストラの収入もうなぎ上りだ。

西洋の一流音楽家を大量入団させる夢よ、もう一度！近衛は上海に出向こうとした。それでどうなったか。むろん計画は絵に描いた餅に終わった。上海共同租界の借地人会議は工部局交響楽団をなんとか存続させる道へと方針を転換した。もしもこのとき新交響楽団のメンバーの半数が西洋人になっていたら、オーケストラの歴史はまったく違うものになっていただろう。近衛は上海に出かけることなく、東京でオーディションに励み、9月のうちに新しい日本人メンバーによる補強を終えた。この経緯は近衛体制をとりあえず支持してオーケストラに居残った楽団員たちにも、将来への不安と近衛への不信を残した。自分たちは、西洋人と取り換えられるものなら取り換えたいと近衛に思われている存在だと、よくわかってしまったのだから。

近衛がオーケストラから追放されるまで、あと4年である。

文 | 片山杜秀(かたやま もりひで)

思想史研究者、音楽評論家。慶應義塾大学法学部教授。2008年、『音盤考現学』『音盤博物誌』で吉田秀和賞、サントリー学芸賞を受賞。『クラシックの核心』『ゴジラと日の丸』『近代日本の右翼思想』『未完のファンズム』『見果てぬ日本』『尊皇攘夷』ほか著書多数。

次回予告

近衛と楽員との間の亀裂は、やがて寒風吹きすさぶ状態に。一方で、新響と山田耕筰とは和解に向かい、定期公演もついに第100回を数えるに至ります。

2023年9月定期公演のプログラムについて

公演企画担当者から

愛するR. シュトラウス作品で ルイーザが新シーズンの開幕を飾る

2023-24シーズンは、[Aプログラム]の「オール・R. シュトラウス」でスタートする。

《イタリアから》は、ローマの廢墟はいきよやナポリの絶景を目にした作曲家の心の動きを描いたもので、ルイーザがたびたび取り上げているお気に入りの作品。首席指揮者就任前から、この曲への愛を熱く語っていた。ドイツ後期ロマン派を得意とするマエストロの芸術的な関心と、イタリア人のメンタリティとして共感できる部分のバランスが、絶妙にうまく取れた音楽なのだろう。終楽章には有名な《フニクリ・フニクラ》のメロディが現れるが、この主題がソナタ形式の枠組みの中でどう展開されるかも、聴きどころのひとつである。

《ティル・オイレンシュピーゲルの愉快ないたずら》は、その10年近くあとに作曲された。シュトラウスはここで初めて4管という難易度の高い楽器編成に挑み、オーケストレーションの名人としての評価を確立することになる。中世のトリックスターを題材にしたこの曲が持つユー

モラスな味わいは、「風刺のきいたジョーク」を語義とする《ブルレスケ》にも通じるものがあり、2曲を続けて聴くのは興味深い試みとなろう。

秀れた《指環》管弦楽編曲版で 英雄の愛と戦いの軌跡をたどる

[Cプログラム]の《オーケストラル・アドベンチャー》は、ワーグナーの《楽劇「ニーベルングの指環」》を、オランダの打楽器奏者フリーヘルがコンサート用に編曲したもの。この編曲版の出来のよさは、1992年の初演以来、たちまち世界中で頻繁に演奏されるようになったという事実が証明している。最大の特徴は、《指環》の壮大な物語を、英雄ジークフリートを主役とする冒険譚たんに集約し、これを主軸とする音楽が、1本の縦糸として紡がれていく点にある。有名な「ジークフリートの動機」を中心に、彼が奏でる楽器である「角笛の動機」や、大蛇を倒す武器となる「剣の動機」が、循環主題のように繰り返し現れることで、聴き手は英雄の愛と戦いの軌跡を克明にたどることができるのだ。これらの動機は、ライン河のさ

ざ波を思わせる、曲冒頭の変ホ長調の分散和音から導き出されており、英雄の生きざま、ひいては人の一生が、自然から生まれ、やがてそこへ回帰していくものであることを、強く意識させる構成になっている。卓抜な手法という他ない。新シーズン[Cプロ]のテーマ、“冒険とファンタジー”の幕開けにぴったりの、ルイージの選曲である。

**匠のタクトによるモーツァルトで
みずみずしい古楽のエッセンスを堪能する**

[Bプログラム]に登場するのは3度目の共演となるトン・コープマンで、こちらもひとりの作曲家を集めた「オール・モーツァルト」となる。過去2回の《交響曲第41番「ジュピター」》《第40番》に続き、後期三大交響曲のひとつ、《第39番》を取り上げる。古楽とモダンの両分野で活躍するコープマンの指揮の最大の特徴は、風通しのよい音楽作りにある。古楽奏法を押し付けるようなことはせず、そのエッセンスだけ

をシンプルな言葉と表情で伝える。リハーサルを進め方はあくまで無理がなく、奏者に余計なストレスをかけないので、その結果、いつも自発的でみずみずしい演奏が生まれるのだ。

《フルート協奏曲第2番》のソリストは、首席の神田寛明。フルート奏者必修の名曲を、すばらしい指揮者と演奏できることが楽しみでならないという。気心の知れたメンバーのサポートを得て、一体感のあるアンサンブルが聴けることだろう。

《交響曲第29番》は、澄みわたるような晴れやかさ、付点リズムを多用した2つの中間楽章の優美さが、コープマンの指揮する初回のコンサートにふさわしいと思い、こちらからリクエストした。

“芸術の秋”の開幕を、3種類の「オール・○○・プログラム」でお楽しみ頂ければ幸いである。

[西川彰一／NHK交響楽団 芸術主幹]

A 9/9[±] 6:00pm
9/10^日 2:00pm
NHKホール

R. シュトラウス／
交響詩「ティル・オイレンシュピーゲルの愉快ないたずら」作品28
R. シュトラウス／ブルレスケ ニ短調*
R. シュトラウス／交響的幻想曲「イタリアから」作品16
指揮：ファビオルイージ
ピアノ：マルティン・ヘルムヒエン*



B 9/20^水 7:00pm
9/21^木 7:00pm
サントリーホール

モーツァルト／交響曲 第29番 イ長調 K. 201
モーツァルト／フルート協奏曲 第2番 ニ長調 K. 314
モーツァルト／交響曲 第39番 変ホ長調 K. 543
指揮：トン・コープマン
フルート：神田寛明(NHKフルート首席奏者)



C 9/15^金 7:30pm
9/16[±] 2:00pm
NHKホール

ワーグナー(フリーヘル編)／楽劇「ニーベルングの指環」
—オーケストラ・アドベンチャー—
指揮：ファビオルイージ



2023-24シーズン定期公演プログラム

PROGRAM

A

最高峰の指揮者、
ソリストたちと本格的作品を贈るプログラム。
——オーケストラ音楽の醍醐味を存分に味わう。

NHKホール

± 6:00pm 日 2:00pm

Autumn

2023

09 September

第1989回

9/9 ± 6:00pm

9/10 日 2:00pm

シュトラウスの若き日の名作で
ルイーダが故郷・イタリアを活写する

R. シュトラウス / 交響詩「ティル・オイレンシュピーゲル
の愉快ないたずら」作品28

R. シュトラウス / ブルレスケ 二短調 *

R. シュトラウス / 交響的幻想曲「イタリアから」作品16

指揮: ファビオ・ルイーダ ピアノ: マルティン・ヘルムヒェン *



一般	ユースチケット
S ¥9,800	S ¥4,500
A ¥8,400	A ¥4,000
B ¥6,700	B ¥3,300
C ¥5,400	C ¥2,500
D ¥4,400	D ¥1,800
E ¥2,800	E ¥1,400

2023

10 October

第1992回

10/14 ± 6:00pm

10/15 日 2:00pm

ブロムシュテットとN響が築く
荘厳な音の伽藍

ブルックナー / 交響曲 第5番 変ホ長調

指揮: ヘルベルト・ブロムシュテット



一般	ユースチケット
S ¥9,800	S ¥4,500
A ¥8,400	A ¥4,000
B ¥6,700	B ¥3,300
C ¥5,400	C ¥2,500
D ¥4,400	D ¥1,800
E ¥2,800	E ¥1,400

2023

11 November

第1997回

11/25 ± 6:00pm

11/26 日 2:00pm

フェドセーエフが愛おしむロシア舞台音楽の傑作たち

スヴイリドフ / 小三部作

プロコフィエフ / 歌劇「戦争と平和」—「ワルツ」(第2場)

A. ルビンシテイン / 歌劇「悪魔」のバレエ音楽—「少女たちの踊り」*

グリーンカ / 歌劇「イワン・スサーニン」—「クラコーヴィアク」

リムスキー・コルサコフ / 歌劇「雪娘」組曲

チャイコフスキー (フェドセーエフ編) / バレエ組曲「眠りの森の美女」

指揮: ウラディーミール・フェドセーエフ



一般	ユースチケット
S ¥9,100	S ¥4,000
A ¥7,600	A ¥3,500
B ¥5,900	B ¥2,800
C ¥4,800	C ¥2,100
D ¥3,800	D ¥1,500
E ¥2,000	E ¥1,000

★当初発表の曲目から変更となりました。

Winter

2023

12 December

第2000回

12/16 ± 6:00pm

12/17 日 2:00pm

渋谷から鳴動する 大宇宙を震わす響き

第2000回定期公演

マーラー / 交響曲 第8番 変ホ長調 「一千人の交響曲」

[ファン投票選出曲]

指揮: ファビオ・ルイーダ ソプラノ: エレーナ・スティッキーナ、

ヴァレンティーナ・ファルカシュ、三宅理恵

アルト: オレシア・ベトロヴァ、カリオーナ・モリソン

テノール: ミハエル・シャーデ

バトン: ルーク・ストリアフ バス: デーヴィッド・ステフェンス

合唱: 新国立劇場合唱団 児童合唱: NHK東京児童合唱団



一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A ¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥4,000
C ¥6,500	C ¥3,200
D ¥5,000	D ¥2,500
E ¥3,300	E ¥1,600

2024

01

January

舞台音楽に通暁するソビエフの
フランス&ロシア バレエ音楽の精華ビゼー(シCHEDリン編)／バレエ音楽「カルメン組曲」
ラヴェル／組曲「マ・メール・ロワ」
ラヴェル／バレエ音楽「ラ・ヴァルス」

指揮:トウガン・ソビエフ



一般	ユースチケット
S ¥9,100	S ¥4,000
A ¥7,600	A ¥3,500
B ¥5,900	B ¥2,800
C ¥4,800	C ¥2,100
D ¥3,800	D ¥1,500
E ¥2,000	E ¥1,000

2024

02

February

井上道義 最後のN響定期で
ショスタコーヴィチの問題作を問うヨハン・シュトラウスII世/ボルカ「クラップフェンの森で」作品336
ショスタコーヴィチ/舞台管弦楽のための組曲 第1番
—「行進曲」「リリック・ワルツ」【小さなボルカ】「ワルツ第2番」
ショスタコーヴィチ/
交響曲 第13番 変ロ短調 作品113「バビヤール」*指揮:井上道義 バス:エフゲーニ・スタヴィンスキー*
男声合唱:オルフェイドレンガル男声合唱団*

一般	ユースチケット
S ¥9,800	S ¥4,500
A ¥8,400	A ¥4,000
B ¥6,700	B ¥3,300
C ¥5,400	C ¥2,500
D ¥4,400	D ¥1,800
E ¥2,800	E ¥1,400

Spring

2024

04

April

妥協なき巨匠 ヤノフスキと拓く
ブラームス《第1番》の新たな世界シューベルト/交響曲 第4番 ハ短調 D. 417
ブラームス/交響曲 第1番 ハ短調 作品68

指揮:マレク・ヤノフスキ



一般	ユースチケット
S ¥9,100	S ¥4,000
A ¥7,600	A ¥3,500
B ¥5,900	B ¥2,800
C ¥4,800	C ¥2,100
D ¥3,800	D ¥1,500
E ¥2,000	E ¥1,000

2024

05

May

眼前に蘇る古今のローマの情景
そして人々の息遣いバンフィリ/戦いを生ける【日本初演】
レスピーギ/交響詩「ローマの噴水」
レスピーギ/交響詩「ローマの松」
レスピーギ/交響詩「ローマの祭り」

指揮:ファビオ・ルイーゼ



一般	ユースチケット
S ¥9,800	S ¥4,500
A ¥8,400	A ¥4,000
B ¥6,700	B ¥3,300
C ¥5,400	C ¥2,500
D ¥4,400	D ¥1,800
E ¥2,800	E ¥1,400

2024

06

June

盟友 原田と反田が誘う
魅力あふれるスクリャービンの世界スクリャービン/夢想 作品24
スクリャービン/ピアノ協奏曲 嬰へ短調 作品20
スクリャービン/交響曲 第2番 ハ短調 作品29指揮:原田慶太楼
ピアノ:反田恭平

一般	ユースチケット
S ¥9,100	S ¥4,000
A ¥7,600	A ¥3,500
B ¥5,900	B ¥2,800
C ¥4,800	C ¥2,100
D ¥3,800	D ¥1,500
E ¥2,000	E ¥1,000

(以上、すべて税込)

年間会員券(9回) | S ¥69,300 A ¥58,050 B ¥45,090 C ¥36,720 D ¥28,800 D(ユースチケット) ¥8,100(税込)

シーズン会員券(3回) | S ¥24,360 A ¥20,310 B ¥15,870 C ¥12,870 D ¥10,140 D(ユースチケット) ¥3,300(税込)

※今シーズンよりAプログラムの定期会員券および1回券の料金を改定させていただきます(E席1回券、ユースチケットをのぞく)。何卒ご了承のほどお願い申し上げます。

2023-24シーズン定期公演プログラム

PROGRAM

B

豊かな響きのサントリーホールで味わう名匠たちの音作り。
——豪華なソリストたちの至芸にも期待。

サントリーホール

水 7:00pm

木 7:00pm

Autumn

2023

09 September

第1991回

9/20 水 7:00pm

9/21 木 7:00pm

“古楽の達人”の自由な精神が
モーツァルトに新たな命を吹き込む

モーツァルト／交響曲 第29番 イ長調 K. 201
モーツァルト／フルート協奏曲 第2番 二長調 K. 314
モーツァルト／交響曲 第39番 変ホ長調 K. 543

指揮: トン・コーマン
フルート: 神田寛明 (N響フルート首席奏者)



一般	ユースチケット
S ¥9,800	S ¥4,500
A ¥8,400	A ¥4,000
B ¥6,700	B ¥3,300
C ¥5,400	C ¥2,500
D ¥4,400	D ¥1,800

2023

10 October

第1994回

10/25 水 7:00pm

10/26 木 7:00pm

巨匠の愛奏曲 ブラームス《第3番》で
その至芸を味わう

ベートーヴェン／ピアノ協奏曲 第5番 変ホ長調
作品73「皇帝」
ブラームス／交響曲 第3番 へ長調 作品90

指揮: ヘルベルト・フロムシュテット
ピアノ: レイフ・オヴェ・アンズネス



一般	ユースチケット
S ¥9,800	S ¥4,500
A ¥8,400	A ¥4,000
B ¥6,700	B ¥3,300
C ¥5,400	C ¥2,500
D ¥4,400	D ¥1,800

2023

11 November

第1996回

11/15 水 7:00pm

11/16 木 7:00pm

最高峰の解釈者が紡ぐシベリウス
その幽玄な世界に浸る

シベリウス／交響詩「タピオラ」作品112
ストラヴィンスキー／ヴァイオリン協奏曲 二調
シベリウス／交響曲 第1番 ホ短調 作品39

指揮: ユッカ・ベッカ・サラステ
ヴァイオリン: ベッカ・クーシスト



一般	ユースチケット
S ¥9,800	S ¥4,500
A ¥8,400	A ¥4,000
B ¥6,700	B ¥3,300
C ¥5,400	C ¥2,500
D ¥4,400	D ¥1,800

Winter

2023

12 December

第1999回

12/6 水 7:00pm

12/7 木 7:00pm

レーガールの気品あふれる名作をレイージの指揮で聴く

レーガール生誕150年

ハイドン／交響曲 第100番ト長調 Hob. I-100 「軍隊」
リスト／ピアノ協奏曲 第1番 変ホ長調
レーガール／モーツァルトの主題による変奏曲と
フーガ 作品132

指揮: ファビオ・ルイージ
ピアノ: アリス・紗良・オット



一般	ユースチケット
S ¥9,800	S ¥4,500
A ¥8,400	A ¥4,000
B ¥6,700	B ¥3,300
C ¥5,400	C ¥2,500
D ¥4,400	D ¥1,800

2024

01

January

第2003回

1/24 水 7:00pm

1/25 木 7:00pm

♪響が誇るトップ奏者たちが
モーツァルトで腕を振るう

モーツァルト／ヴァイオリンとヴィオラのための

協奏交響曲 変ホ長調 K. 364

ベートーヴェン／交響曲 第3番 変ホ長調 作品55「英雄」

指揮：トウガン・シエフ

ヴァイオリン：郷古 廉 (♪響ゲスト・コンサートマスター)*

ヴィオラ：村上淳一郎 (♪響ヴィオラ首席奏者)

★当初発表の出演者から変更となりました。



一般	ユースチケット
S ¥9,800	S ¥4,500
A ¥8,400	A ¥4,000
B ¥6,700	B ¥3,300
C ¥5,400	C ¥2,500
D ¥4,400	D ¥1,800

2024

02

February

第2006回

2/14 水 7:00pm

2/15 木 7:00pm

エラス・カサド 母国の名作を携え

5年ぶりに♪響定期登場

ラヴェル／スペイン狂詩曲

プロコフィエフ／ヴァイオリン協奏曲 第2番

ト短調 作品63

ファリャ／バレエ音楽「三角帽子」(全曲)*

指揮：パブロ・エラス・カサド

ヴァイオリン：オーガスティン・ハーデリッヒ

ソプラノ：吉田珠代*



一般	ユースチケット
S ¥9,800	S ¥4,500
A ¥8,400	A ¥4,000
B ¥6,700	B ¥3,300
C ¥5,400	C ¥2,500
D ¥4,400	D ¥1,800

Spring

2024

04

April

第2009回

4/24 水 7:00pm

4/25 木 7:00pm

巨匠が生涯をかけて探究する

シューマンの奥深き世界

シューマン／歌劇「ゲノヴェーヴァ」序曲

シューマン／チェロ協奏曲 イ短調 作品129

シューマン／交響曲 第2番 八長調 作品61

指揮：クリストフ・エッセンバッハ

チェロ：キアン・ソルターニ



一般	ユースチケット
S ¥9,800	S ¥4,500
A ¥8,400	A ¥4,000
B ¥6,700	B ¥3,300
C ¥5,400	C ¥2,500
D ¥4,400	D ¥1,800

2024

05

May

第2012回

5/22 水 7:00pm

5/23 木 7:00pm

デンマーク国立響のシェフ ルイージが

♪響でニルセンを初披露

ブラームス／ピアノ協奏曲 第1番 二短調 作品15

ニルセン／交響曲 第2番 口短調 作品16「4つの気質」

指揮：ファビオ・ルイージ

ピアノ：ルドルフ・プフリンダー



一般	ユースチケット
S ¥9,800	S ¥4,500
A ¥8,400	A ¥4,000
B ¥6,700	B ¥3,300
C ¥5,400	C ¥2,500
D ¥4,400	D ¥1,800

2024

06

June

第2015回

6/19 水 7:00pm

6/20 木 7:00pm

楽都ウィーンで生まれた古今の傑作を

鈴木優人のタクトで聴く

ウェーベルン／パッサカリア 作品1

シェーンベルク／ヴァイオリン協奏曲 作品36

パツハ(ウェーベルン編)／リチェルカータ

シューベルト／交響曲 第5番 変口長調 D. 485

指揮：鈴木優人

ヴァイオリン：イザベル・ファウスト



一般	ユースチケット
S ¥9,800	S ¥4,500
A ¥8,400	A ¥4,000
B ¥6,700	B ¥3,300
C ¥5,400	C ¥2,500
D ¥4,400	D ¥1,800

(以上、すべて税込)

年間会員券(9回) | S ¥74,970 A ¥64,260 B ¥51,255 C ¥41,310 D ¥33,660 D(ユースチケット) ¥9,720

※Bプログラムではシーズン会員券の販売は行いません。

※今シーズンよりBプログラムの定期会員券の料金を改定させていただきます。あわせて1回券を全公演一律料金とさせていただきます。何卒ご了承のほどお願い申し上げます。

〈お知らせ〉来季2024-25シーズンよりBプログラムの日程を「木曜7:00pm/金曜7:00pm」に変更させていただきます。

2023-24シーズン定期公演プログラム

PROGRAM

C

世界的指揮者のタクトでコンパクトに味わう屈指の名作たち。
——テーマは“冒険”と“ファンタジー”。開演前の室内楽も魅力的。

NHKホール | 金 7:30pm 土 2:00pm

※休憩のない、60～80程度の公演となります。

※開演前に舞台上で、N響メンバーによる室内楽のミニコンサートを行います(15分程度、1日目:6:45pm～/2日目:1:15pm～)。
ご自身の座席でお楽しみください。室内楽演奏中の客席への出入りは自由です。

Autumn

2023

09

September

第1990回

9/15

金 7:30pm

9/16

土 2:00pm

オペラの達人が本領発揮!
ルイージが迫る ワグナーの真髄

ワグナー(フリーヘル編)/楽劇「ニーベルングの指環」
——オーケストラ・アドベンチャー——

指揮:ファビオ・ルイージ



一般	ユースチケット
S ¥7,600	S ¥3,500
A ¥6,700	A ¥3,000
B ¥5,300	B ¥2,400
C ¥4,300	C ¥1,900
D ¥3,300	D ¥1,400
E ¥1,600	E ¥800

2023

10

October

第1993回

10/20

金 7:30pm

10/21

土 2:00pm

ニルセン&シベリウス
プロムシュテット十八番の北欧プログラム

ニルセン/アラジン組曲 作品34
——「祝祭行進曲」「ヒンドウの踊り」
「イスファハンの市場」「黒人の踊り」
シベリウス/交響曲 第2番 二長調 作品43

指揮:ヘルベルト・プロムシュテット



一般	ユースチケット
S ¥7,600	S ¥3,500
A ¥6,700	A ¥3,000
B ¥5,300	B ¥2,400
C ¥4,300	C ¥1,900
D ¥3,300	D ¥1,400
E ¥1,600	E ¥800

2023

11

November

第1995回

11/10

金 7:30pm

11/11

土 2:00pm

ハンガリー出身の新星が贈る母国の名作

バルトーク/ハンガリーの風景
リスト/ハンガリー幻想曲*
コダーイ/組曲「ハーリ・ヤーノシュ」

指揮:ゲルゲイ・マダラシュ
ピアノ:阪田知樹*



一般	ユースチケット
S ¥7,600	S ¥3,500
A ¥6,700	A ¥3,000
B ¥5,300	B ¥2,400
C ¥4,300	C ¥1,900
D ¥3,300	D ¥1,400
E ¥1,600	E ¥800

Winter

2023

12

December

第1998回

12/1

金 7:30pm

12/2

土 2:00pm

目くるめく夢幻 荒れ狂う狂騒
ルイージの《幻想》

フンパーディンク/歌劇「ヘンゼルとグレーテル」前奏曲
ベルリオーズ/幻想交響曲 作品14

指揮:ファビオ・ルイージ



一般	ユースチケット
S ¥7,600	S ¥3,500
A ¥6,700	A ¥3,000
B ¥5,300	B ¥2,400
C ¥4,300	C ¥1,900
D ¥3,300	D ¥1,400
E ¥1,600	E ¥800

2024

01

January

ソビエフが切実に描く
恋人たちの悲劇

リャードフ／交響詩「キキモラ」作品63

プロコフィエフ(ソビエフ編)／
バレエ組曲「ロメオとジュリエット」

指揮:トウガン・ソビエフ



一般	ユースチケット
S ¥7,600	S ¥3,500
A ¥6,700	A ¥3,000
B ¥5,300	B ¥2,400
C ¥4,300	C ¥1,900
D ¥3,300	D ¥1,400
E ¥1,600	E ¥800

第2002回

1/19 金 7:30pm

1/20 土 2:00pm

2024

02

February

情熱の人 大植英次
四半世紀を経て再びN響定期の舞台に

ワーグナー／ジークフリートの牧歌

R. シュトラウス／交響詩「英雄の生涯」作品40

指揮:大植英次



一般	ユースチケット
S ¥7,600	S ¥3,500
A ¥6,700	A ¥3,000
B ¥5,300	B ¥2,400
C ¥4,300	C ¥1,900
D ¥3,300	D ¥1,400
E ¥1,600	E ¥800

第2005回

2/9 金 7:30pm

2/10 土 2:00pm

Spring

2024

04

April

巨匠エッシェンバッハ
満を持してブルックナーをN響で初披露

ブルックナー／交響曲 第7番 ホ長調

指揮:クリストフ・エッシェンバッハ



一般	ユースチケット
S ¥7,600	S ¥3,500
A ¥6,700	A ¥3,000
B ¥5,300	B ¥2,400
C ¥4,300	C ¥1,900
D ¥3,300	D ¥1,400
E ¥1,600	E ¥800

第2008回

4/19 金 7:30pm

4/20 土 2:00pm

2024

05

May

ルイーゼ&N響のメンデルスゾーン第2弾
《夏の夜の夢》&《宗教改革》

メンデルスゾーン／「夏の夜の夢」の音楽
—「序曲」「夜想曲」「スケルツォ」「結婚行進曲」

メンデルスゾーン／交響曲 第5番 二短調 作品107
「宗教改革」

指揮:ファビオ・ルイーゼ



一般	ユースチケット
S ¥7,600	S ¥3,500
A ¥6,700	A ¥3,000
B ¥5,300	B ¥2,400
C ¥4,300	C ¥1,900
D ¥3,300	D ¥1,400
E ¥1,600	E ¥800

第2011回

5/17 金 7:30pm

5/18 土 2:00pm

2024

06

June

定期初登場 沖澤のどかと臨む
エスプリ溢れるフランス・プログラム

イベール／寄港地

ラヴェル／左手のためのピアノ協奏曲

ドビュッシー／夜想曲*

指揮:沖澤のどか
ピアノ:デニス・コジュヒン
女声合唱:東京混声合唱団*



一般	ユースチケット
S ¥7,600	S ¥3,500
A ¥6,700	A ¥3,000
B ¥5,300	B ¥2,400
C ¥4,300	C ¥1,900
D ¥3,300	D ¥1,400
E ¥1,600	E ¥800

(以上、すべて税込)

年間会員券(9回) | S ¥57,780 A ¥50,760 B ¥40,500 C ¥32,760 D ¥25,020 D(ユースチケット) ¥7,200(税込)

シーズン会員券(3回) | S ¥20,340 A ¥17,910 B ¥14,250 C ¥11,520 D ¥8,790 D(ユースチケット) ¥3,000(税込)

*今シーズンよりCプログラムの定期会員券および1回券の料金を改定させていただきます(E席1回券、ユースチケットをのぞく)。何卒ご了承のほどお願い申し上げます。

チケットのご案内(定期公演 2023年9月～2024年6月)

定期会員券

毎回同じ座席をご用意。1回券と比べて1公演あたり10～27%お得です！(割引率は公演や券種によって異なります)

発売開始日 (10:00amからの受付)	年間会員券、シーズン会員券(Autumn)	2023年7月9日[日](定期会員先行)／2023年7月17日[月・祝](一般)
	シーズン会員券(Winter)	2023年10月12日[木](定期会員先行)／2023年10月17日[火](一般)
	シーズン会員券(Spring)	2024年2月7日[水](定期会員先行)／2024年2月16日[金](一般)

料金(税込)

券種		S	A	B	C	D	D(ユースチケット)
年間 会員券 (9回)	Aプログラム	¥69,300 (¥7,700)	¥58,050 (¥6,450)	¥45,090 (¥5,010)	¥36,720 (¥4,080)	¥28,800 (¥3,200)	¥8,100 (¥900)
	Bプログラム	¥74,970 (¥8,330)	¥64,260 (¥7,140)	¥51,255 (¥5,695)	¥41,310 (¥4,590)	¥33,660 (¥3,740)	¥9,720 (¥1,080)
	Cプログラム	¥57,780 (¥6,420)	¥50,760 (¥5,640)	¥40,500 (¥4,500)	¥32,760 (¥3,640)	¥25,020 (¥2,780)	¥7,200 (¥800)

券種		S	A	B	C	D	D(ユースチケット)
シーズン 会員券 (3回)	Aプログラム	¥24,360 (¥8,120)	¥20,310 (¥6,770)	¥15,870 (¥5,290)	¥12,870 (¥4,290)	¥10,140 (¥3,380)	¥3,300 (¥1,100)
	Cプログラム	¥20,340 (¥6,780)	¥17,910 (¥5,970)	¥14,250 (¥4,750)	¥11,520 (¥3,840)	¥8,790 (¥2,930)	¥3,000 (¥1,000)

()内は1公演あたりの単価

※今シーズンより定期会員券の料金を改定させていただきます。何卒ご了承のほどお願い申し上げます(A・Cプログラムのユースチケット定期会員券[D席]料金に変更はありません)。

1回券

公演ごとにチケットをお買い求めいただけます。料金は公演によって異なります。各公演の情報をご覧ください。

発売開始日 (10:00amからの受付)	9・10・11月	2023年7月27日[木](定期会員先行)／2023年7月30日[日](一般)
	12・1・2月	2023年10月26日[木](定期会員先行)／2023年10月29日[日](一般)
	4・5・6月	2024年2月28日[水](定期会員先行)／2024年3月3日[日](一般)

※今シーズンより1回券の料金を改定させていただきます(E席、ユースチケットをのぞく)。何卒ご了承のほどお願い申し上げます。

※「WEBセレクト3+」の販売は前シーズンをもって終了いたしました。

ユースチケット

25歳以下の方へのお得なチケットです。1回券と定期会員券(D席)でご利用いただけます。料金は各公演の情報をご覧ください。
※25歳以下の証明となるものをご提示いただきます。※ユースチケットのお取り扱いにはN響ガイドのみとなります。

2023年7月上旬より、ユースチケットをWEBチケットN響でもご購入いただけます。
利用にあたっては事前に登録が必要となります。詳しくはN響ホームページでご案内いたします。

WEBチケットN響

6/27(火)まで <https://ticket.nhkso.or.jp>

6/29(木)から <https://nhkso.pia.jp> 発売開始日は10:00amからの受付

N響ガイド

6/27(火)まで TEL 03-5793-8161 営業時間：11:00am～5:00pm
定休日：土・日・祝日、定期公演Aプログラムの翌月曜日

6/29(木)から TEL 0570-02-9502 営業時間：10:00am～5:00pm ▶ 営業開始時刻が変わります
定休日：土・日・祝日

※主催公演開催日は曜日に関わらず営業開始時刻から開演時刻まで営業 ※発売初日の土・日・祝日は営業開始時刻～3:00pmの営業 ※電話受付のみの営業
※N響ガイドでのお申し込みは公演日の1営業日前まで ※6/28(水)はシステム移行のためN響ガイドを臨時休業とし、WEBチケットN響でのチケット販売も休止

※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。

「N響ガイド」および「WEBチケットN響」のサービス移行のお知らせ(2023年6月29日へ)

詳しくは p. 8 をご覧ください

Please follow us on     

特別公演

6/27(火) 7:00pm | Music Tomorrow 2023

東京オペラシティ コンサートホール | ※尾高賞授賞式・プレトーク: 6:30pm～

指揮:ライアン・ウィグルスワース 尺八:藤原道山 ヴァイオリン:金川真弓 三味線:本條秀慈郎

藤倉 大 / 尺八協奏曲 (2021) [第70回「尾高賞」受賞作品]

一柳 慧 / ヴァイオリンと三味線のための二重協奏曲 (2021) [第70回「尾高賞」受賞作品]

スルンカ / スーパーオーガニズム (2022) [NHK交響楽団、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団、ロサンゼルス・フィルハーモニック、

パリ管弦楽団、チェコ・フィルハーモニー管弦楽団共同委嘱作品 / 世界初演]

※当初発表の演奏曲から変更になりました

料金(税込):一般 | S席3,500円 A席2,500円 B席1,500円

WEBチケットN響 特別料金 | S席3,000円 A席2,000円 B席1,000円

チケット:発売中

主催:NHK / NHK交響楽団

共催:公益財団法人東京オペラシティ文化財団

助成:文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術等総合支援事業(創造団体支援)) | 独立行政法人日本芸術文化振興会 /

公益財団法人三菱UFJ信託芸術文化財団 / 公益財団法人 アフィニス文化財団



7/21(金) 7:00pm | N響「夏」2023

NHK ホール

指揮:熊倉 優 ピアノ:北村朋幹

ウェーバー / 歌劇「魔弾の射手」序曲

モーツァルト / ピアノ協奏曲 第24番 ハ短調 K. 491

シューマン / 交響曲 第3番 変ホ長調 作品97「ライン」

料金(税込):一般 | S席7,300円 A席5,300円 B席3,300円 C席2,100円

ユースチケット(25歳以下) | S席5,200円 A席3,800円 B席2,350円 C席1,500円

※定期会員は一般料金から10%割引

チケット:発売中

主催:NHK / NHK交響楽団

協賛:岩谷産業株式会社

8/3(日) 7:00pm | N響ウェルカム・コンサート

NHK ホール

指揮:熊倉 優 フルート:神田寛明(N響首席フルート奏者) ナビゲーター:大林奈津子
コダーイ/組曲「ハリー・ヤーノシュ」—「ウィーンの音楽時計」(11月Cプログラム)
R. シュトラウス/交響的幻想曲「イタリアから」—第4楽章「ナポリの人の生活」(9月Aプログラム)
チャイコフスキー/バレエ音楽「眠りの森の美女」—「ワルツ」(11月Aプログラム)
モーツァルト/フルート協奏曲 第2番 二長調—第2楽章(9月Bプログラム)
ワーグナー/楽劇「ワルキューレ」—「ワルキューレの騎行」(9月Cプログラム)
ニルセン/アラジン組曲—「イスファハンの市場」(10月Cプログラム)
イベール/寄港地—「バレンシア」(6月Cプログラム)
レスピーギ/交響詩「ローマの祭り」—「主顕祭」(5月Aプログラム)
料金(全席指定/税込):一般 1,800円/定期会員 1,200円/ユースチケット(25歳以下) 500円/
ウェルカム・ペアチケット(2枚1組) 2,000円

チケット:発売中

主催:NHK/NHK交響楽団

8/6(日) 3:30pm | 夏休み特別公演 | 夏だ! 祭りだ!! N響ほっとコンサート

NHK ホール

指揮:三ツ橋敬子 ナビゲーター・歌:小野あつこ ヴァイオリン:郷古 廉(N響ゲスト・コンサートマスター)*
外山雄三/「管弦楽のためのラプソディ」—「八木節」
久石 譲/オーケストラストーリーズ「となりのトトロ」(語り:小野あつこ)
ピアソラ/「ブエノスアイレスの四季」—「夏」*
ヘンデル/「水上の音楽」—「アラ・ホーンパイプ」
アルヴェーン/スウェーデン狂詩曲 第1番「夏至の徹夜祭」(抜粋)
J. シュトラウス2世/ポルカ「クラブフェンの森で」
グロフェ/組曲「グランド・キャニオン」—「山道を行く」
ファリャ/歌劇「はかなき人生」—「スペイン舞曲」 ほか
料金(税込):一般 | S席5,200円 A席4,200円 B席3,000円 C席1,500円
25歳以下 | S席4,000円 A席3,000円 B席2,000円 C席1,000円
小・中学生 | S席2,000円 A席1,500円 B席1,000円 C席500円
※定期会員はS・A・B各席の一般料金から10%割引

チケット:発売中

主催:NHK/NHK交響楽団

9/28(土) 7:00pm | 明電舎 presents N響名曲コンサート2023

サントリーホール

指揮:下野竜也 ピアノ:小林海都

ドヴォルザーク/序曲「謝肉祭」作品92

モーツァルト/ピアノ協奏曲 第23番 イ長調 K. 488

ドヴォルザーク/交響曲 第8番 ト長調 作品88

料金(税込):一般 | SS席8,500円 S席6,500円 A席5,000円 B席3,500円 C席2,500円

ユースチケット(25歳以下) | SS席4,200円 S席3,200円 A席2,500円 B席1,700円 C席1,200円

※定期会員は一般料金から10%割引

チケット:発売中

主催:NHK交響楽団

特別協賛:株式会社 明電舎

WEBチケットN響

6/27(火)まで <https://ticket.nhkso.or.jp> 発売開始日は11:00amからの受付

6/29(木)から <https://nhkso.pia.jp> 発売開始日は10:00amからの受付

N響ガイド

6/27(火)まで TEL 03-5793-8161 営業時間:11:00am~5:00pm
定休日:土・日・祝日、定期公演Aプログラムの翌月曜日

6/29(木)から TEL 0570-02-9502 営業時間:10:00am~5:00pm▶営業開始時刻が変わります
定休日:土・日・祝日

※主催公演開催日は曜日に関わらず営業開始時刻から開演時刻まで営業 ※発売初日の土・日・祝日は営業開始時刻~3:00pmの営業 ※電話受付のみの営業
※N響ガイドでのお申し込みは公演日の1営業日前まで ※6/28(水)はシステム移行のためN響ガイドを臨時休業とし、WEBチケットN響でのチケット販売も休止

※ユースチケット(25歳以下)はN響ガイドにお電話でお申し込みください(7月上旬よりWEBチケットN響でもご購入いただけます)。

※事前に年齢確認のための登録手続きが必要となります。詳しくはN響ホームページをご覧ください。

※定期会員割引・先行発売はWEBチケットN響、N響ガイドのみのお取り扱いとなります。

※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。

公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。

※公演に関する最新の情報はN響ホームページでご確認ください。



N響ホームページ

「N響ガイド」および「WEBチケットN響」のサービス移行のお知らせ(2023年6月29日~)

詳しくは p. 8をご覧ください

各地の公演

7/1(土) 4:00pm | N響ベストクラシックス 山下一史×金川真弓×N響

かつしかシンフォニーヒルズ モーツァルトホール

指揮:山下一史 ヴァイオリン:金川真弓

チャイコフスキー／ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品35

チャイコフスキー／交響曲 第4番 へ短調 作品36

主催:葛飾区文化施設指定管理者 お問い合わせ:かつしかシンフォニーヒルズ TEL(03)5670-2233

7/2(日) 3:00pm | NHK交響楽団演奏会 静岡公演

静岡市清水文化会館マリナート

出演者・曲目は7月1日と同じ

主催:NHK静岡放送局、NHK交響楽団 お問い合わせ:静岡公演専用電話 TEL(052)320-9933

7/9(日) 3:00pm | NHK交響楽団 郡山公演

けんしん郡山文化センター(郡山市民文化センター) 大ホール

指揮:尾高忠明 ピアノ:角野隼斗

ショパン／ピアノ協奏曲 第1番 ホ短調 作品11

ストラヴィンスキー／バレエ組曲「火の鳥」(1945年版)

主催:(公財)郡山市文化・学び振興公社(郡山市民文化センター指定管理者)

お問い合わせ:けんしん郡山文化センター(郡山市民文化センター) TEL(024)934-2288

7/15(土) 5:00pm

小山実稚恵[ピアノ]《華麗なるコンチェルト》

NHK交響楽団×広上淳一[指揮]

所沢市民文化センター ミューズ アークホール

指揮:広上淳一 ピアノ:小山実稚恵

ブラームス／ピアノ協奏曲 第1番 二短調 作品15

ラフマニノフ／ピアノ協奏曲 第3番 二短調 作品30

主催:(公財)所沢市文化振興事業団 お問い合わせ:ミュージックチケットカウンター TEL(04)2998-7777

7/17(日) 3:00pm | オーケストラ・キャラバン NHK交響楽団 茨城特別公演

ザ・ヒロサワ・シティ会館 大ホール

指揮: 広上淳一 ピアノ: 小山実稚恵
ラフマニノフ／ピアノ協奏曲 第3番 二短調 作品30
ベートーヴェン／交響曲 第7番 イ長調 作品92

主催: (公社)日本オーケストラ連盟、NHK交響楽団 お問合せ: ザ・ヒロサワ・シティ会館 TEL (029) 241-1166

7/23(日) 6:00pm | 第25回 NHK交響楽団松山定期演奏会

松山市民会館 大ホール

指揮: 熊倉 優 ピアノ: 北村朋幹
ウェーバー／歌劇「魔弾の射手」序曲
モーツァルト／ピアノ協奏曲 第24番 ハ短調 K. 491
シューマン／交響曲 第3番 変ホ長調 作品97「ライン」

主催: NHK松山放送局、愛媛新聞社、NHK交響楽団 お問合せ: NHK財団松山局視聴者ふれあいセンター TEL (089) 921-1159

7/29(土) 4:00pm | フェスタ サマーミュージック KAWASAKI 2023

ミュージック川崎シンフォニーホール

指揮: キンボー・イシイ ピアノ: マルティン・ガルシア・ガルシア
ラフマニノフ／ピアノ協奏曲 第2番 ハ短調 作品18
リムスキー・コルサコフ／交響組曲「シェエラザード」作品35

主催: 川崎市／ミュージック川崎シンフォニーホール(川崎市文化財団グループ) お問合せ: ミュージック川崎シンフォニーホール TEL (044) 520-0200

8/25(金) 7:00pm | NHK交響楽団演奏会 帯広公演

帯広市民文化ホール

指揮: アンドリス・ポーガ ピアノ: 松田華音
チャイコフスキー／ピアノ協奏曲 第1番 変口短調 作品23
チャイコフスキー／交響曲 第6番 口短調「悲愴」作品74

主催: NHK帯広放送局、NHK交響楽団 お問合せ: ハローダイヤル TEL (050) 5542-8600

8/27(日) 3:00pm | NHK交響楽団演奏会 旭川公演

旭川市民文化会館

出演者・曲目は8月25日と同じ

主催: NHK旭川放送局、NHK交響楽団 お問合せ: ハローダイヤル TEL (050) 5542-8600

8/28(日) 7:00pm | NHK交響楽団演奏会 札幌公演

札幌コンサートホール Kitara

出演者・曲目は8月25日と同じ

主催: NHK札幌放送局、NHK交響楽団 お問合せ: ハローダイヤル TEL (050) 5542-8600

9/2(土) 3:30pm

真夏の音楽会 vol. 6

大谷康子と楽しむ音楽の旅 魔法の世界へ

東京芸術劇場コンサートホール

指揮:大友直人 ヴァイオリン:大谷康子*

ジョン・ウィリアムズ/映画「ハリ・ポッターと賢者の石」—「ヘドウィグのテーマ」

チャイコフスキー/バレエ音楽「眠りの森の美女」—第2幕の間奏曲*

ムソルグスキー(リムスキー・コルサコフ編)/交響詩「はげ山の一夜」

サラサーテ/ファウストの主題による幻想曲*

ヘルメスベルガーII世/悪魔の踊り

エルガー/組曲「青春の杖」第1番—「序曲」「妖精と巨人」

ジョン・ウィリアムズ/映画「ハリ・ポッターと秘密の部屋」—「ハリーの不思議な世界」

サラサーテ/チゴイナーワイゼン*

ストラヴィンスキー/バレエ組曲「火の鳥」(1919年版)—「カッチェイ王の魔の踊り」「こもり歌」「終曲」

主催:練馬区 お問い合わせ:練馬区文化・生涯学習課文化振興係 TEL(03)5984-1284

9/23(土) 3:00pm | NHK交響楽団定期演奏会(愛知県芸術劇場シリーズ)

愛知県芸術劇場 コンサートホール

指揮:トン・コープマン フルート:神田寛明(N響フルート首席奏者)

モーツァルト/交響曲 第29番 イ長調 K. 201

モーツァルト/フルート協奏曲 第2番 二長調 K. 314

モーツァルト/交響曲 第39番 変ホ長調 K. 543

主催:愛知県芸術劇場、NHK名古屋放送局 お問い合わせ:愛知県芸術劇場 TEL(052)211-7552

9/24(日) 5:00pm | 開館35周年記念 NHK交響楽団 伊那公演

長野県伊那文化会館 大ホール

出演者・曲目は9月23日と同じ

主催:長野県伊那文化会館(一財)長野県文化振興事業団 お問い合わせ:長野県伊那文化会館 TEL(0265)73-8822

10/1(日) 3:00pm | 鎌倉芸術館開館30周年記念 NHK交響楽団演奏会

鎌倉芸術館 大ホール

指揮:下野竜也 ピアノ:小林海都

ドヴォルザーク/序曲「謝肉祭」作品92

モーツァルト/ピアノ協奏曲 第9番 変ホ長調 K. 271「ジュノム」

ドヴォルザーク/交響曲 第8番 長調 作品88

主催:鎌倉市芸術館指定管理者 鎌倉市芸術文化振興財団・国際ビルサービス共同事業体 お問い合わせ:鎌倉芸術館チケットセンター TEL(0120)1192-40

10/7(土) 6:00pm | 第11回 NHK交響楽団いわき定期演奏会

いわき芸術文化交流館アリオス アルパイン大ホール

指揮:鈴木雅明 ヴァイオリン:成田達輝

シューベルト/交響曲 第7番 口短調 D. 759「未完成」

モーツァルト/ヴァイオリン協奏曲 第4番 二長調 K. 218

メンデルスゾーン/交響曲 第4番 イ長調 作品90「イタリア」

主催:いわき芸術文化交流館アリオス お問い合わせ:アリオスチケットセンター TEL(0246)22-5800

10/29日 2:00pm

NHK交響楽団

ヘルベルト・ブロムシュテット[指揮] レイフ・オヴェ・アンズネス[ピアノ]

所沢市民文化センター ミューズ アークホール

指揮:ヘルベルト・ブロムシュテット ピアノ:レイフ・オヴェ・アンズネス

ベートーヴェン/ピアノ協奏曲 第5番 変ホ長調 作品73「皇帝」

ブラームス/交響曲 第3番 へ長調 作品90

主催:(公財)所沢市文化振興事業団 お問い合わせ:ミューズチケットカウンター TEL(04)2998-7777

11/20日 7:00pm | NHK音楽祭2023

NHKホール

指揮:ウラディーミル・フェドセーエフ 児童合唱:東京少年少女合唱隊

チャイコフスキー/バレエ音楽「くるみ割り人形」作品71(全曲)

主催:NHK、NHKプロモーション 共催:NHK交響楽団 お問い合わせ:ハローダイヤル TEL(050)5541-8600

オーチャード定期

横浜みなとみらいホール 大ホール

7/8日 3:30pm

出演者・曲目は7月9日と同じ

主催・お問い合わせ:Bunkamura TEL(03)3477-3244

Information

N響主催公演に
ご来場のみなさまへのお願い
新型コロナウイルス感染症の
5類への変更を受けて

2023年5月8日に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが5類に変更されたことを受け、N響主催公演にご来場のみなさまには、改めて下記の対策をお願いすることになりました。

コンサートを安心してお楽しみいただくために、引き続きご協力をお願いいたします。

- ・発熱等の体調不良時にはご来場をお控えください。
- ・適切な手指の消毒、咳エチケットにご協力ください。
- ・「ブラボー」等のお声掛けをされる際は、マスクの着用にご協力をお願いいたします。

お詫びと訂正

本誌『Philharmony』2023年5月号にて誤りがございました。
お詫び申し上げますとともに、以下のとおり訂正をさせていただきます。

11頁 モーツァルト《ホルン協奏曲第3番》の曲目解説 第2段落1～2行目

【誤】4曲あるモーツァルトのホルン協奏曲中、最後に書かれたことが、現在では定説となっている。

【正】4曲あるホルン協奏曲中、モーツァルトが手がけた完成作品としては最後の作品となっている。

NHK交響楽団

首席指揮者：ファビオ・ルイーゼ
名誉音楽監督：シャルル・デュトラ
桂冠名誉指揮者：ヘルベルト・ブロムシュテット
桂冠指揮者：ウラディーミル・アシュケネージ
名誉指揮者：パーヴォ・ヤルヴィ
正指揮者：外山雄三、尾高忠明

特別コンサートマスター：篠崎史紀
コンサートマスター：伊藤亮太郎
ゲスト・コンサートマスター：郷古 廉

第1ヴァイオリン

青木 調
宇根京子
大鹿由希
○倉富亮太
後藤 康
小林玉紀
高井敏弘
猶井悠樹
中村弓子
降旗貴雄
○松田拓之
宮川奈々
村尾隆人
○山岸 努
○横倉礼理
○横溝耕一

第2ヴァイオリン

◎大宮臨太郎
◎森田昌弘
木全利行
齋藤麻衣子
○嶋田慶子
○白井 篤
○田中晶子
坪井きらら
丹羽洋輔
平野一彦
船木陽子
俣野賢仁
○三又治彦
矢津将也

山田慶一
横山俊朗
米田有花

ヴィオラ

◎佐々木 亮
◎村上淳一郎
☆中村翔太郎
小野 聡
小島茂隆
□坂口弦太郎
谷口真弓
飛澤浩人
○中村洋乃理
松井直之
三国レイチェル由依
御法川雄矢
○村松 龍
山田雄司

チェロ

◎辻本 玲
◎藤森亮一
市 寛也
小島幸法
○中 実徳
○西山健一
藤村俊介
宮坂拓志
村井 将
○山内俊輔
渡邊方子

コントラバス

◎吉田 秀
○市川雅典
稻川永示
○岡本 潤
今野 京
佐川裕昭
○西山真二
本間達朗
矢内陽子

フルート

◎甲斐雅之
◎神田寛明
梶川真歩
中村淳二

オーボエ

◎吉村結実
池田昭子
坪池泉美
和久井 仁

クラリネット

◎伊藤 圭
◎松本健司
山根孝司

ファゴット

◎宇賀神広宣
◎水谷上総
佐藤由起
菅原恵子
森田 格

ホルン

◎今井仁志
石山直城
勝俣 泰
木川博史
庄司雄大
野見山和子

トランペット

◎菊本和昭
◎長谷川智之
安藤友樹
山本英司

トロンボーン

◎古賀 光
◎新田幹男
池上 亘
黒金寛行
吉川武典

チューバ

池田幸広

ティンパニ

◎植松 透
◎久保昌一

打楽器

石川達也
黒田英実
竹島悟史

ハーブ

早川りさこ

ステージ・マネージャー

徳永匡哉
黒川大亮

ライブラリアン

沖 あかね
木村英代

(五十音順、◎首席、☆首席代行、○次席、□次席代行、#インスペクター)

特別支援・特別協力・賛助会員

Corporate Membership

特別支援

岩谷産業株式会社	代表取締役社長 間島 寛
三菱地所株式会社	執行役社長 中島 篤
株式会社 みずほ銀行	頭取 加藤勝彦
公益財団法人 渋谷育英会	理事長 小丸成洋

特別協力

BMW ジャパン	代表取締役社長 Christian Wiedmann
全日本空輸株式会社	代表取締役社長 井上慎一
ヤマハ株式会社	代表執行役社長 中田卓也
株式会社 パレスホテル	代表取締役社長 吉原大介
びあ株式会社	代表取締役社長 矢内 廣

賛助会員

・ 常陸宮	・ 有限責任 あずさ監査法人 理事長 森 俊哉	・ (株)ウインクツー 代表取締役 福田健二
・ (株)アートレイ 代表取締役 小森活美	・ アットホーム(株) 代表取締役社長 鶴森康史	・ 内 聖美
・ (株)アイシン 取締役社長 吉田守孝	・ イーソリューションズ(株) 代表取締役 佐々木経世	・ SMBC日興証券(株) 代表取締役社長 近藤雄一郎
・ (株)インホールディングス 代表取締役社長 大谷喜一	・ EY新日本有限責任監査法人 理事長 片倉正美	・ SCSK(株) 代表取締役 執行役員 社長 當麻隆昭
・ 葵設備工事(株) 代表取締役社長 安藤正明	・ (株)井口一世 代表取締役 井口一世	・ (株)NHK アート 代表取締役社長 平田恭佐
・ AXLBIT(株) 代表取締役社長 長谷川章博	・ 池上通信機(株) 代表取締役社長 清森洋祐	・ NHK 営業サービス(株) 代表取締役社長 長村 中
・ アサヒグループホールディングス(株) 代表取締役社長兼CEO 勝木敦志	・ 伊東国際特許事務所 所長 伊東忠重	・ (株)NHK エデュケーショナル 代表取締役社長 荒木美弥子
・ (株)朝日工業社 代表取締役社長 高須康有	・ 井村屋グループ(株) 代表取締役会長(CEO) 中島伸子	・ (株)NHK エンタープライズ 代表取締役社長 松本浩司
・ 朝日信用金庫 理事長 伊藤康博	・ (株)インターネットイニシアティブ 代表取締役会長 鈴木幸一	・ (学)NHK学園 理事長 篠原朋子

- ・(株)NHK グローバルメディアサービス
代表取締役 | 傍田賢治
- ・(株)NHK 出版
代表取締役社長 | 土井成紀
- ・(株)NHK テクノロジーズ
代表取締役社長 | 野口周一
- ・(株)NHK ビジネスクリエイティブ
代表取締役社長 | 石原 勉
- ・(株)NHK プロモーション
代表取締役社長 | 有吉伸人
- ・(株)NHK 文化センター
代表取締役社長 | 浦林竜太
- ・(株)NTT ドコモ
代表取締役社長 | 井伊基之
- ・(株)NTT ファシリティーズ
代表取締役社長 | 松原和彦
- ・ENEOS ホールディングス(株)
代表取締役社長 社長執行役員
齊藤 猛
- ・荏原冷熱システム(株)
代表取締役 | 庄野 道
- ・大崎電気工業(株)
代表取締役会長 | 渡辺佳英
- ・大塚ホールディングス(株)
代表取締役社長兼CEO | 樋口達夫
- ・(株)大林組
代表取締役 | 蓮輪賢治
- ・オールニッポンヘリコプター(株)
代表取締役社長 | 柳川 淳
- ・岡崎耕治
- ・小田急電鉄(株)
取締役社長 | 星野晃司
- ・カシオ計算機(株)
代表取締役社長 | 櫻尾和宏
- ・鹿島建設(株)
代表取締役社長 | 天野裕正
- ・(株)加藤電気工業所
代表取締役 | 加藤浩章
- ・(株)金子製作所
代表取締役 | 金子晴房
- ・カルチュア・エンタテインメント(株)
代表取締役社長執行役員 | 中西一雄
- ・(株)関電工
取締役社長 | 仲摩俊男

- ・(株)かんぼ生命保険
取締役兼代表執行役社長 | 千田哲也
- ・キッコーマン(株)
代表取締役社長COO | 中野祥三郎
- ・(株)CURIOUS PRODUCTIONS
代表取締役 | 黒川幸太郎
- ・(株)教育芸術社
代表取締役 | 市川かおり
- ・(株)共栄サービス
代表取締役 | 半田 充
- ・(株)共同通信会館
代表取締役専務 | 梅野 修
- ・(一社)共同通信社
社長 | 水谷 亨
- ・キリンホールディングス(株)
代表取締役社長 | 磯崎功典
- ・(学)国立音楽大学
理事長 | 重盛次正
- ・黒澤隆史
- ・京王電鉄(株)
代表取締役社長 社長執行役員
都村智史
- ・京成電鉄(株)
代表取締役社長 社長執行役員
小林敏也
- ・KDDI(株)
代表取締役社長 | 高橋 誠
- ・京浜急行電鉄(株)
取締役社長 | 川俣幸宏
- ・(仮)社団 恒仁会
理事長 | 伊藤恒道
- ・(株)コーポレートディレクション
代表取締役 | 石井光太郎
- ・小林弘侑
- ・佐川印刷(株)
代表取締役会長 | 木下宗昭
- ・佐藤弘康
- ・サフラン電機(株)
代表取締役 | 藤崎貴之
- ・(株)サンセイ
代表取締役 | 富田佳佑
- ・サントリーホールディングス(株)
代表取締役社長 | 新浪剛史
- ・(株)ジェイ・ウィル・コーポレーション
代表取締役 | 佐藤雅典

- ・JCOM(株)
代表取締役社長 | 岩木陽一
- ・(株)シグマクス・ホールディングス
代表取締役 | 富村隆一
- ・(株)ジャパン・アーツ
代表取締役社長 | 二瓶純一
- ・(株)集英社
代表取締役社長 | 廣野真一
- ・(株)小学館
代表取締役社長 | 相賀信宏
- ・(株)商工組合中央金庫
代表取締役社長 | 関根正裕
- ・庄司勇次朗・恵子
- ・ジョンソン・エンド・ジョンソン(株)
- ・(株)白川プロ
代表取締役 | 白川亜弥
- ・新赤坂クリニック青山
院長 | 松木隆央
- ・信越化学工業(株)
代表取締役社長 | 斉藤恭彦
- ・新菱冷熱工業(株)
代表取締役社長 | 加賀美 猛
- ・(株)スカパーJSATホールディングス
代表取締役社長 | 米倉英一
- ・(株)菅原
代表取締役 | 古江訓雄
- ・スズキ(株)
代表取締役社長 | 鈴木俊宏
- ・住友商事(株)
代表取締役社長執行役員 CEO
兵頭誠之
- ・住友電気工業(株)
社長 | 井上 治
- ・セイコーグループ(株)
代表取締役会長兼グループCEO
兼グループCCO | 服部真二
- ・聖徳大学
学長 | 川並弘純
- ・西武鉄道(株)
取締役社長 | 喜多村樹美男
- ・関彰商事(株)
代表取締役会長 | 関 正夫
- ・(株)セノン
代表取締役 | 稲葉 誠
- ・(株)ソニー・ミュージックエンタテインメント
代表取締役社長CEO | 村松俊亮

- ・損害保険ジャパン(株)
取締役社長 | 白川儀一
- ・第一三共(株)
代表取締役会長兼CEO | 眞鍋 淳
- ・第一生命保険(株)
代表取締役社長 | 隅野俊亮
- ・ダイキン工業(株)
取締役社長 | 十河政則
- ・大成建設(株)
代表取締役社長 | 相川善郎
- ・大日コーポレーション(株)
代表取締役社長兼グループCEO
鈴木忠明
- ・高砂熱学工業(株)
代表取締役社長 | 小島和人
- ・(株)ダク
代表取締役 | 福田浩二
- ・(株)竹中工務店
取締役執行役員社長 | 佐々木正人
- ・田中貴金属工業(株)
代表取締役社長執行役員
田中浩一朗
- ・田中 進
- ・田原 昇
- ・チャンネル銀河(株)
代表取締役社長 | 林田真由
- ・中央日本土地建物グループ(株)
代表取締役社長 社長執行役員
三宅 潔
- ・中外製薬(株)
代表取締役社長 | 奥田 修
- ・テルウェル 東日本(株)
代表取締役社長 | 谷 誠
- ・(株)電通
代表取締役社長執行役員 | 樽谷典洋
- ・(株)テンポブリモ
代表取締役 | 中村聡武
- ・東海旅客鉄道(株)
代表取締役社長 | 丹波俊介
- ・東急(株)
取締役社長 | 高橋和夫
- ・(株)東急文化村
代表取締役社長 | 中野哲夫
- ・東京海上日動火災保険(株)
取締役社長 | 広瀬伸一
- ・(株)東京交通会館
取締役社長 | 興野敦郎
- ・東信地所(株)
代表取締役 | 堀川利通
- ・東武鉄道(株)
取締役社長 | 根津嘉澄
- ・桐朋学園大学
学長 | 辰巳明子
- ・東邦ホールディングス(株)
代表取締役 | 有働 敦
- ・(株)東北新社
代表取締役社長 | 小坂恵一
- ・鳥取末広座(株)
代表取締役社長 | 西川八重子
- ・(一財)凸版印刷三幸会
代表理事 | 金子眞吾
- ・トヨタ自動車(株)
執行役員社長 | 佐藤恒治
- ・内外施設工業グループホールディングス(株)
代表取締役社長 | 林 克昌
- ・中銀グループ
代表 | 渡辺藏人
- ・日鉄興和不動産(株)
代表取締役社長 | 三輪正浩
- ・日東紡績(株)
取締役 代表取締役社長 | 辻 裕一
- ・(株)日本アーティスト
代表取締役 | 幡野菜穂子
- ・日本ガイン(株)
取締役社長 | 小林 茂
- ・(株)日本国際放送
代表取締役社長 | 高尾 潤
- ・日本運通(株)
代表取締役社長 | 堀切 智
- ・日本電気(株)
代表取締役執行役員社長 | 森田隆之
- ・(一財)日本放送協会共済会
理事長 | 谷弘聡史
- ・日本郵政(株)
取締役兼代表執行役社長 | 増田寛也
- ・(株)ニフコ
代表取締役会長 | 山本利行
- ・野田浩一
- ・野村ホールディングス(株)
代表執行役社長 | 奥田健太郎
- ・パナソニック ホールディングス(株)
代表取締役 社長執行役員 グループCEO
楠見雄規
- ・(有)パルフェ
代表取締役 | 伊藤良彦
- ・びあ(株)
代表取締役社長 | 矢内 廣
- ・東日本電信電話(株)
代表取締役社長 社長執行役員
澁谷直樹
- ・(株)日立製作所
執行役社長 | 小島啓二
- ・(株)フォトン
代表取締役 | 瀧水 隆
- ・福田三千男
- ・富士通(株)
代表取締役社長 | 時田隆仁
- ・富士通フロンテック(株)
代表取締役社長 | 川上博亨
- ・古川建築音響研究所
所長 | 古川宣一
- ・(株)朋栄ホールディングス
代表取締役 | 清原克明
- ・(株)放送衛星システム
代表取締役社長 | 角 英夫
- ・(公財)放送文化基金
理事長 | 濱田純一
- ・ホクト(株)
代表取締役 | 水野雅義
- ・(株)ポケモン
代表取締役社長 | 石原恒和
- ・前田工織(株)
代表取締役社長兼COO | 前田尚宏
- ・牧 寛之
- ・丸紅(株)
代表取締役社長 | 柿木真澄
- ・溝江建設(株)
代表取締役社長 | 溝江 弘
- ・三井住友海上火災保険(株)
代表取締役 | 舩曳真一郎
- ・(株)三井住友銀行
頭取 | 福留朗裕
- ・三井住友信託銀行(株)
取締役社長 | 大山一也

- ・三菱商事(株)
代表取締役社長 | 中西勝也
- ・三菱電機(株)
執行役社長 | 漆間 啓
- ・(株)緑山スタジオ・シティ
代表取締役社長 | 永田周太郎
- ・三橋産業(株)
代表取締役会長 | 三橋洋之
- ・三原穂積
- ・(株)ミロク情報サービス
代表取締役社長 | 是枝周樹
- ・(学)武蔵野音楽学園 武蔵野音楽大学
理事長 | 福井直敬
- ・(株)明治
代表取締役社長 | 松田克也
- ・(株)明電舎
執行役員社長 | 三井田 健
- ・メットライフ生命保険(株)
取締役 代表執行役 副社長 | 伊地知 剛
- ・(株)目の眼
社主 | 櫻井 恵
- ・(株)モメンタム ジャパン
代表取締役社長 | 三溝広志
- ・森ビル(株)
代表取締役社長 | 辻 慎吾
- ・森平舞台機構(株)
代表取締役 | 森 健輔
- ・矢下茂雄
- ・山田産業(株)
代表取締役 | 山田裕幸
- ・(株)山野楽器
代表取締役社長 | 山野政彦
- ・(株)ヤマハミュージックジャパン
代表取締役社長 | 西村 淳
- ・ユニオンツール(株)
代表取締役会長 | 片山貴雄
- ・米澤文彦
- ・(株)読売広告社
代表取締役社長 | 菊地英之
- ・(株)読売旅行
代表取締役社長 | 坂元 隆
- ・リコージャパン(株)
代表取締役 社長執行役員 CEO
木村和宏
- ・料亭 三長
代表 | 高橋千善
- ・(株)リンレイ
代表取締役社長 | 鈴木信也
- ・(有)ルナ・エンタープライズ
代表取締役 | 戸張誠二
- ・ROOM(株)
代表取締役社長 社長執行役員
松本 功
- ・YKアクロス(株)
代表取締役社長 | 中野健次
- ・YCC(株)
社長 | 中山武之
- ・渡辺敦郎・優子

(五十音順、敬称略)

NHK交響楽団への ご寄付について

NHK交響楽団は多くの方々の貴重なご寄付に支えられて、積極的な演奏活動を展開しております。定期公演の充実をはじめ、著名な指揮者・演奏家の招聘、意欲あふれる特別演奏会の実現、海外公演の実施など、今後も音楽文化の向上に努めてまいりますので、みなさまのご支援をよろしくお願い申し上げます。

「賛助会員」入会のご案内

NHK交響楽団は賛助会員制度を設け、上記の方々にご支援をいただいております。当団の経営基盤を支える大きな柱となっております。会員制度の内容は次の通りです。

■当団は「公益財団法人」として認定されています。

当団は芸術の普及向上を行うことを主目的とする法人として「公益財団法人」の認定を受けているため、当団に対する寄付金は税制上の優遇措置の対象となります。

1. 会費：一口50万円(年間)
2. 期間：入会は随時、年会費をお支払いいただいたときから1年間
3. 入会の特典：『フィルハーモニー』、『年間パンフレット』、『第9』演奏会プログラム等にご芳名を記載させていただきます。

N響主催公演のご鑑賞の機会を設けます。

遺贈のご案内

資産の遺贈(遺言による寄付)を希望される方々のご便宜をお図りするために、NHK交響楽団では信託銀行が提案する「遺言信託制度」をご紹介します(三井住友信託銀行と提携)。相続財産目録の作成から遺産分割手続の実施まで、煩雑な相続手続を信託銀行が有償で代行いたします。まずはN響寄付担当係へご相談ください。

お問い合わせ

公益財団法人 NHK交響楽団「寄付担当係」

TEL：03-5793-8120

曲目解説執筆者

伊藤制子(いとう せいこ)

東邦音楽大学、静岡文化芸術大学ほか講師。研究領域は日仏の近現代音楽、音楽美学。『音楽の友』などで評論活動、海外オペラ取材なども行う。近年はアウグスト・ユンケルについて調査中。訳書に『ラヴェル——その素顔と音楽論』『リスト——ヴィルトゥオーゾの冒険』など。

柴辻純子(しばつじ じゅんこ)

音楽評論家。おもな研究領域は、新ウィーン楽派を中心とする20世紀音楽、および同時代の音楽。NHK-FMで司会・解説などを担当。現在は「ブラボー! オーケストラ」のパーソナリティとして出演中。共著書に『この曲、わかる? 聴きながら楽しむクラシック入門10』『クラシック作曲家事典』など。

千葉潤(ちば じゅん)

札幌大谷大学学長。2003年、モスクワ音楽院大学院から芸術学カンディダート(Ph. D)を授与される。専門はロシア音楽。著書に『ショスタコーヴィチ』(作曲家・人と作品シリーズ)、『アリフレド・シュニトケの交響的創作』、共編著書に『ロシア音楽事典』、おもな論文に「エディソン・デニーソフ《死は永き眠り》における変奏技法の諸特徴」など。

(五十音順、敬称略)

いつでも どこでも、NHKの番組を。

NHK+



利用登録はこちらから

<https://plus.nhk.jp/info/>

総合・Eテレの番組を

スマホやタブレット・
パソコン・テレビ^{※1}で
放送から1週間^{※2} 何度でも

お楽しみいただけます!

※1 テレビでは視聴し番組配信のみ

※2 地域の一部は延長2週間配信

メールアドレスとパスワードを入力するだけで
すぐに見逃し配信をご覧ください

※放送受信契約のある世帯の方が追加のご負担なく利用できるサービスです

アプリで便利に!



スマホやPCでNHKラジオが楽しめる!

NHK ラジオ らじる★らじる

スマートフォンやパソコンでラジオ第1(R1)・ラジオ第2(R2)・NHK-FMの放送をリアルタイムで聴くことができます。スマートフォンならアプリでもお楽しみいただけます。 <http://www.nhk.or.jp/radio>

放送が終わっても
楽しめる!

聴き逃し

放送終了後1週間 / 聴き逃し対象番組のみ



スマートフォン用アプリはこちらから

みなさまの声をお聞かせください！

インターネットアンケートにご協力ください

ご鑑賞いただいた公演のご感想や、N響の活動に対するみなさまのご意見を、ぜひお寄せください。
ご協力をお願いいたします。

アクセス方法

STEP

1



スマートフォンで右の
QRコードを読み取る。
またはURLを入力
[https://www.nhkso.or.jp/
enquete.html](https://www.nhkso.or.jp/enquete.html)



STEP

2



開いたリンク先からアンケートサイトに入る

STEP

3



アンケートに答えて(約5分)、
「送信」を押して完了！

ほかにもご意見・ご感想がありましたらお寄せください。

定期公演会場の主催者受付にお持ちいただくか、

〒108-0074東京都港区高輪2-16-49 NHK交響楽団 フィルハーモニー編集までお送りください。

ふりがな		年齢	歳
お名前		TEL	

個人情報の取り扱いについて

ご提供いただいた個人情報は、必要な場合、ご記入者様への連絡のみに使用し、他の目的に使用いたしません。

NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO

Chief Conductor: Fabio Luisi

Music Director Emeritus: Charles Dutoit

Honorary Conductor Laureate: Herbert Blomstedt

Conductor Laureate: Vladimir Ashkenazy

Honorary Conductor: Paavo Järvi

Permanent Conductors: Yuzo Toyama, Tadaaki Otaka

Specially Appointed Concertmaster: Fuminori Maro Shinozaki

Concertmaster: Ryotaro Ito

Guest Concertmaster: Sunao Goko

1st Violins

- Shirabe Aoki
- Kyoko Une
- Yuki Oshika
- Ryota Kuratomi
- Ko Goto
- Tamaki Kobayashi
- Toshihiro Takai
- Yuki Naoi
- Yumiko Nakamura
- Takao Furihata
- Hiroyuki Matsuda
- Nana Miyagawa
- Ryuto Muroa
- Tsutomu Yamagishi
- Masamichi Yokoshima
- Koichi Yokomizo

2nd Violins

- ◎ Rintaro Omiya
- ◎ Masahiro Morita
- Toshiyuki Kimata
- Maiko Saito
- Keiko Shimada
- Atsushi Shirai
- Akiko Tanaka
- Kirara Tsuboi
- Yosuke Niwa
- Kazuhiko Hirano
- Yoko Funaki
- Kenji Matano
- Haruhiko Mimata
- Masaya Yazu
- Yoshikazu Yamada
- Toshiro Yokoyama
- Yuka Yoneda

Violas

- ◎ Ryo Sasaki
- ◎ Junichiro Murakami

- ☆ Shotaro Nakamura
- Satoshi Ono
- Shigetaka Obata
- Gentaro Sakaguchi
- Mayumi Taniguchi
- Hiroto Tobisawa
- Hironori Nakamura
- Naoyuki Matsui
- Rachel Yui Mikuni
- # Yuya Minorikawa
- Ryo Muramatsu
- Yuji Yamada

Cellos

- ◎ Rei Tsujimoto
- ◎ Ryoichi Fujimori
- Hiroya Ichi
- Yukinori Kobatake
- Miho Naka
- Ken'ichi Nishiyama
- Shunsuke Fujimura
- Hiroshi Miyasaka
- Yuki Murai
- Shunsuke Yamanouchi
- Masako Watanabe

Contrabasses

- ◎ Shu Yoshida
- Masanori Ichikawa
- Eiji Inagawa
- Jun Okamoto
- Takashi Konno
- Hiroaki Sagawa
- Shinji Nishiyama
- Tatsuro Honma
- Yoko Yanai

Flutes

- ◎ Masayuki Kai
- ◎ Hiroaki Kanda

- Maho Kajikawa
- Junji Nakamura

Oboes

- ◎ Yumi Yoshimura
- Shoko Ikeda
- Izumi Tsuboike
- Hitoshi Wakui

Clarinets

- ◎ Kei Ito
- ◎ Kenji Matsumoto
- # Takashi Yamane

Bassoons

- ◎ Hironori Ugajin
- ◎ Kazusa Mizutani
- Yuki Sato
- Keiko Sugawara
- Itaru Morita

Horns

- ◎ Hitoshi Imai
- Naoki Ishiyama
- Yasushi Katsumata
- Hiroshi Kigawa
- Yudai Shoji
- Kazuko Nomiyama

Trumpets

- ◎ Kazuaki Kikumoto
- ◎ Tomoyuki Hasegawa
- Tomoki Ando
- Eiji Yamamoto

Trombones

- ◎ Hikaru Koga
- ◎ Mikio Nitta
- Ko Ikegami
- Hiroyuki Kurogane
- Takenori Yoshikawa

Tuba

- Yukihiro Ikeda

Timpani

- ◎ Toru Uematsu
- ◎ Shoichi Kubo

Percussion

- Tatsuya Ishikawa
- Hidemi Kuroda
- Satoshi Takeshima

Harp

- Risako Hayakawa

Stage Manager

- Masaya Tokunaga
- Daisuke Kurokawa

Librarian

- Akane Oki
- Hideyo Kimura

(◎ Principal, ☆ Acting Principal, ○ Vice Principal, □ Acting Vice Principal, # Inspector)

PROGRAM

A

Concert No.1986

NHK Hall

June

10 (Sat) 6:00pm

11 (Sun) 2:00pm

conductor

Gianandrea Noseda

piano

Behzod Abduraimov | *Changed from initially scheduled.

concertmaster

Yosuke Kawasaki♦

◆ **Yosuke Kawasaki:** Born in New York, Yosuke Kawasaki started learning violin at the age of six from his father, Masao Kawasaki, and subsequently studied at the Juilliard School under the tutelage of Dorothy DeLay and Hyo Kang. He has been appointed Concertmaster at orchestras in both Japan and North America including Japan Century Orchestra, Saito Kinen Orchestra and most recently, the National Arts Centre Orchestra known as the NAC Orchestra in Ottawa, Canada.

Sergei Prokofiev
The Love for Three Oranges
Op. 33bis, symphonic suite [16']

- I The Ridicules
- II Infernal Scene
- III March
- IV Scherzo
- V The Prince and the Princess
- VI Flight

Sergei Prokofiev
Piano Concerto No. 2 G Minor
Op. 16 [32']

- I Andantino
- II Scherzo: Vivace
- III Intermezzo: Allegro moderato
- IV Finale: Allegro tempestoso

— intermission (20 minutes) —

Alfredo Casella
Symphonic Fragments
from *La donna serpente*
(*The Serpent Lady*) [Japan Première]
[27']

[I. Serie]

- I Musica del sogno di re Altidòr
- II Interludio
- III Marcia guerria

[II. Serie]

- I Sinfonia
- II Preludio
- III Battaglia e Finale

- All performance durations are approximate.

A

10 & 11 JUNE, 2023

Gianandrea Noseda, conductor



Italian conductor Gianandrea Noseda, born in Milan in 1964, is now serving as Music Director of the National Symphony Orchestra in Washington, D.C., sometimes dubbed the President's orchestra, and as General Music Director of the Opernhaus Zürich having taken over from Fabio Luisi, thus he is active in both orchestral concerts and operas. He has continuously served in positions such as Principal Guest Conductor of the Mariinsky

Theatre, Principal Conductor of the Cadaqués Orchestra, Spain, the BBC Philharmonic, and Music Director of Teatro Regio Torino. With the BBC Philharmonic, he has released numerous notable CDs of works of Respighi, Casella and Dallapiccola, and a disc of works of Russian composers he recorded with the London Symphony Orchestra, where he serves as Principal Guest Conductor, has also won high artistic acclaim. He actively takes up rarely performed works, discovers subtleties hidden in the work and fully draws out poetic and dramatic sentiments from them to reflect in the performances. We can only take off our hats to such a remarkable skill.

Since his first appearance with the NHK Symphony Orchestra in 2005, he has gradually built up good relations with the orchestra though his frequent visits. The programs he will conduct on this visit include the Japan premiere of Casella's Symphonic Fragment from *La donna serpente* (*The Serpent Lady*), Symphony No.1, an ambitious work by Rakhmaninov whose 150th anniversary of birth falls on this year, and Shostakovich's Symphony No. 8 — a highly attractive line-up of a variety of works which is typical of this conductor. We have great expectations for the enthusiastic collaboration of Maestro Noseda and the NHK Symphony Orchestra.

Behzod Abduraimov, piano



Behzod Abduraimov, born in Tashkent, Uzbekistan in 1990, started to play the piano at the age of five, and made his professional debut by performing with the National Symphony Orchestra of Uzbekistan when he was around eight years old. After being trained under Tamara Popovich at the Uspensky State Central Academy in Tashkent, he studied at the Park University International Center for Music in the United States under

the tutelage of Stanislav Ioudenitch, an Uzbek-born pianist who won the 2001 Van Cliburn International Piano Competition. He launched his international career after winning the 2009 London International Piano Competition, while releasing an album of Prokofiev's Piano Sonata No. 6 and others in 2012, and an album containing Prokofiev's Piano Concerto No. 3 in 2014. He has worked with the Philharmonia Orchestra, the Los Angeles Philharmonic, the San Francisco Symphony, the Orchestre de Paris and the Royal Concertgebouw Orchestra.

This is his second collaboration with the NHK Symphony Orchestra, his first being in 2014 when he played Rakhmaninov under Vladimir Ashkenazy. On this occasion, he will perform Piano Concerto No.2 of Prokofiev, his favorite composer.

[Gianandrea Noseda by Nobuyasu Matsuoka, music critic, Behzod Abduraimov by Haruka Kosaka, music journalist]

Sergei Prokofiev (1891–1953)

The Love for Three Oranges Op. 33bis, symphonic suite

Following the 1917 Revolution, Prokofiev left his homeland in May 1918 by permission of the Soviet authorities to compose and perform overseas. Avoiding western disasters of war, he headed east for America via Vladivostok and Tokyo. During this voyage, he prepared the libretto for his opera based on *The Love for Three Oranges* by the Venetian playwright Carlo Gozzi (1720–1806). The opera would be first-staged in Chicago in 1921. The symphonic suite consists of six excerpts arranged by the composer.

The plot is wacky: everyone tries in vain to make the hypochondriac Prince laugh, but he does accidentally during a party seeing the Witch falling over. Furious, she puts a curse on him so he falls in love with three oranges that he goes in search of. The first two Princesses coming out of the enormous oranges die of thirst. The Prince marries the third Princess and expels the villains from the Kingdom. The best-known of the suite, the blatant *March* is from the scene where the sick Prince is forcibly carried from his bedroom to the party. At *Scherzo*, a rhythm of the Italian folk dance tarantella accompanies the hero's feverish hunt for the oranges in the desert.

Sergei Prokofiev

Piano Concerto No. 2 G Minor Op. 16

Marked by a fierce modernism, the Piano Concerto No. 2 belongs to Prokofiev's early period prior to the Bolshevik Revolution. The Ukraine-born Russian artist was still a twenty-one-year-old student when he began working on the piece in 1912. His forward-looking Piano Concerto No. 1 (1912) had created a stir establishing his status as an enfant terrible in the country's music scene, but the more daring, radical, virtuosic concerto No. 2 aroused sharply divided reactions when it was premiered by the composer as soloist in 1913. Regrettably, this version's score was lost amidst the chaos of the Revolution. Prokofiev reconstructed it from 1923 so the new version – the only one we know today – would be first heard in Paris in 1924.

No. 2 is unusual in its four movements all of which have their overall dark tone set by their main key (G or D minor). Requiring a technical prowess and physical toughness, the solo part is known as a most difficult one to play in piano literature. In fact, the opening sonata-like movement has a famously extended, demanding cadenza (pianist's solo without orchestra) with dissonant sounds, and the second Scherzo movement dominated by perpetual motion has both the soloist's hands play ceaseless sixteenth notes in unison. Headed "tempestoso," the final movement in rondo-like form has indeed the stormy main section contrasted with the calmer central section unfolding a folkish theme.

A

10 & 11 JUNE 2023

Symphonic Fragments from *La donna serpente* (*The Serpent Lady*) [Japan Première]

Born in Turin, Casella speaks for Italian modern music along with Respighi. The former entered the Paris Conservatory in 1896 to be trained by Fauré. He since deepened his friendship with musicians active in the French capital including Ravel, before going back to Italy in 1915.

The general transition of Casella's styles mirrors the vital times of music history, as his early works reflect influence of the late-Romanticism (Mahler and R. Strauss) and the Impressionism (Debussy), his middle period being more or less experimental adopting even Schönberg's atonalism, while his later compositions after leaving France show neo-Classical approaches: in all cases, Casella's orchestral output – his strong field – is known for its expert, colorful scoring and solid sound.

Unlike Verdi or Puccini, Casella left us only three operas all of which date from his mature period in Italy. The first one, *La donna serpente* (*The Serpent Lady*) was composed in 1928–1931 to be premiered in 1932 in Rome. It is based upon an eighteenth-century fairytale play by, again, Carlo Gozzi whose works had inspired Puccini's *Turandot* and Prokofiev's above-mentioned piece. The intricate plot of Casella's opera, often compared to Mozart's *Die Zauberflöte* (*Magic Flute*), features the fairy princess Miranda who falls in love with and marries the mortal king Altidòr. Miranda's father promises to make her mortal on condition that she tests her husband under cover: if he curses her, she shall be a snake. As Altidòr faces too severe trials to stand, she actually becomes a snake to be imprisoned, but he fights against monsters to rescue her. Miranda, mortal now, and Altidòr are reunited.

The Symphonic Fragments prepared by Casella comprises six movements divided into two series. The opening movement *Musica del sogno di re Altidòr* (*Music of King Altidòr's Dream*) takes a form of lullaby foretelling the couple's misadventure. Its somnolent mood uncovered by the oboe solo recalls Debussy, while the wild *Marcia guerria* (*Bellicose March*) evokes Prokofiev's *March* from *The Love for Three Oranges*. Marked by snaky, ominous melodies, the mysterious and dark *Preludio* (*Prelude*) suggests Miranda's metamorphosis into a serpent.

Kumiko Nishi

English-French-Japanese translator based in the USA. Holds a MA in musicology from the University of Lyon II, France and a BA from the Tokyo University of the Arts (Geidai).

B

Concert No.1988

Suntory Hall

June

21(Wed) 7:00pm

22(Thu) 7:00pm

conductor	Gianandrea Noseda	for a profile of Gianandrea Noseda, see p. 52
violin	Sayaka Shoji*	
concertmaster	Sunao Goko	

Johann Sebastian Bach

(Ottorino Respighi)

Three Chorales [12']

- I *Nun komm' der Heiden Heilan* (*Come, Savior of the Heathen*)
- II *Meine Seel' erhebt den Herren!* (*My Soul Magnifies the Lord*)
- III *Wachet auf, ruft uns die Stimme* (*Awake, the Voice is Calling Us*)

Ottorino Respighi

Concerto gregoriano* [33']

- I Andante tranquillo
- II Andante espressivo e sostenuto
- III Finale (Alleluja) : Allegro energico

— intermission (20 minutes) —

Sergei Rakhmaninov

Symphony No. 1 D Minor Op. 13

[44']

- I Grave – Allegro ma non troppo
- II Allegro animato
- III Larghetto
- IV Allegro con fuoco

- All performance durations are approximate.

Artist Profile

Sayaka Shoji, violin



© Keian Shirogama

Sayaka Shoji is a violinist who always has a high impact in concerts with first class orchestras and conductors. She played Respighi's *Concerto Gregoriano* at the BBC Proms in London in the summer of 2021, and Sibelius' Violin Concerto at the Israel Philharmonic Orchestra's season opening concerts under the baton of Lahav Shani in 2022.

She studied at the Chigiana Musical Academy in Siena, Italy with

Uto Ughi and Riccardo Brendola, and with Shlomo Mintz in Israel, and with Zakhar Bron at the Hochschule für Musik und Tanz Köln, Germany, and became the youngest ever winner of the 46th Paganini Competition held in Genoa in 1999. Until now, she has played concertos numerous times under Zubin Mehta and Yuri Temirkanov while also under Gianandrea Noseda with the Orchestra dell'Accademia Nazionale di Santa Cecilia in Rome.

She has an extensive discography. She recorded a collection of Beethoven Violin Sonatas with the Italian pianist Gianluca Cascioli, and in 2022, Mozart sonatas by gut strings and classical bows to follow the playing method of the classical period, together with Cascioli's fortepiano.

She has performed with NHK Symphony Orchestra several times. Her last appearance was in June 2018 when she performed Mendelssohn's Concerto for Violin and Piano under Vladimir Ashkenazy and with pianist Vikingur Olafsson.

[Sayaka Shoji by Yoshimichi Okuda, music critic]

Program Notes | Kumiko Nishi

Johann Sebastian Bach (1685–1750) / Ottorino Respighi (1879–1936)

Three Chorales

Respighi was a modern Italian composer whose *Roman Trilogy* (*Fountains of Rome*, *Pines of Rome* and *Roman Festivals*, 1915–1928) has fascinated orchestra fans. The elaborate scoring skills of the Bologna-born tone poet was honed in 1900 under Rimsky-Korsakov (1844–1908), a greatest orchestrator, while the younger man was working as a viola player in Saint Petersburg.

It was after the premieres of the *Roman Trilogy* that Respighi penned *Three Chorales*, orchestral arrangements of J. S. Bach's three masterpieces for organ (for two manuals and pedal) each of which is a setting of a Protestant chorale tune. No. 1 is transcribed from *Nun komm' der Heiden Heiland* (*Come, Savior of the Heathen*) BWV659 of which Respighi transposed the mystique to a solemn string sound world. No. 2 is a brief adaptation, marked "scherzando (playfully)," of *Meine Seel' erhebet den Herren!* (*My Soul Magnifies the Lord*) BWV648 where Respighi entrusts the chorale melody (derived from a Gregorian chant) to a trumpet. No. 3 is after *Wachet auf, ruft uns die Stimme* (*Awake, the Voice is Calling Us*) BWV645 which is based on the hopeful tenor aria from Bach's own cantata BWV140. Respighi's version is started by strings alone before the chorale tune enters with woodwinds. The texture becomes more colorful and thicker slowly to conclude with the brilliant brass support.

Ottorino Respighi

Concerto gregoriano

Respighi left us a vast catalogue containing original compositions inspired by early music as well as transcriptions of past works. He frequently used medieval church modes – famously in *Pines of Rome* –, partly because the singer Elsa Olivieri-Sangiaco whom he married in 1919 was learned in Gregorian chant (a form of unaccompanied liturgical chant of the Catholic Church).

Concerto gregoriano (1921) lets the solo violinist turn his/her back on any hollow bravura

so he/she leads the orchestra just like a cantor in church. The entire work is characterized by its use of church modes. The first movement, for example, opens with string chords in Aeolian mode (A/B/C/D/E/F/G-natural/A) before oboes give the principal theme in Dorian mode (A/B/C/D/E/F-sharp/G/A). After a cadenza by the soloist alone, the next movement begins seamlessly with the solo violin quoting *Victimae paschali laudes* (*Praise the Paschal victim*), a sequence (chanted hymn) for Easter Sunday. The jubilant finale is entitled “Alleluja”: the recurrent theme intoned by horns at the start then taken over by the solo violin resembles indeed the melody of the Gregorian chant *Alleluia* sung before *Beatus vir, qui timet* (*Blessed is the man that fears the Lord*) (Psalm 112:1).

Sergei Rakhmaninov (1873–1943)

Symphony No. 1 D Minor Op. 13

In 1897, the Russian composer Rakhmaninov in his early twenties faced a disaster of the premiere of his new symphony in Saint Petersburg. He then suffered from deep depression and writer’s block for three years before restoring his confidence to complete the celebrated Piano Concerto No. 2. The symphony in question is none other than No. 1 Op. 13.

One theory says that the deciding factor in its fiasco is Alexander Glazunov who led the first performance. Though an able composer, he seemed not to have much ability for conducting nor respect for this symphony. Lambasted, it was since never heard during Rakhmaninov’s lifetime.

When he escaped from his motherland in the aftermath of the 1917 Revolution, the manuscript score of No. 1 was left there to be lost. After he died abroad, the parts used at the premiere were discovered in Leningrad. With the score reconstructed from them, the 1945 second performance in Moscow was received enthusiastically.

No. 1 is a “cyclic” work, as all the four movements are built of at least two common motivic/melodic elements. The first element is heralded by woodwinds at the symphony’s outset, as a swift triplet followed by a D note stressing D minor, the main key. The similar motives would open the three other movements without exception. The second element is typical of Rakhmaninov, for its first four notes are stemmed from the *Dies irae* (*Day of Wrath*) melody of the Catholic Mass for the Dead (this sinister melody is famously present in the composer’s many works). Strings disclose this cyclic element during the introduction of the opening movement, immediately before a clarinet imitates it as the first sonata theme. The next fairy movement, a scherzo, and the third slow movement packed with mellifluous tunes are succeeded by the D-major finale of which the overall mood comes to the fore with an elated flourish of trumpets. The slower valiant ending is spurred on by tam-tam (gong) used only during this movement and timpani.

Kumiko Nishi

For a profile of Kumiko Nishi, see p. 54

B

21 & 22 JUNE 2023

PROGRAM

C**Concert No.1987****NHK Hall**

June**16 (Fri) 7:30pm****17 (Sat) 2:00pm**

conductor**Gianandrea Noseda** | for a profile of Gianandrea Noseda, see p. 52**concertmaster****Yosuke Kawasaki** | for a profile of Yosuke Kawasaki, see p. 51

[Pre-concert Chamber Music – Exclusive to Program C]

Friday 16th from 6:45pm / Saturday 17th from 1:15pm

Koichi Yokomizo(vn.), Masahiro Morita(vn.), Shotaro Nakamura(vla.), Ryoichi Fujimori(vc.)

Shostakovich / 2 Pieces for String Quartet (I *Elegy* / II *Polka*)

* You may enter and leave as you please during the performance. * Enjoy chamber music from your own seat.

Dmitry Shostakovich
Symphony No. 8 C Minor Op. 65

[60']

- I Adagio
- II Allegretto
- III Allegro non troppo
- IV Largo
- V Allegretto

- This concert will be performed with no intermission.
- All performance durations are approximate.

Program Note | Kumiko Nishi

Dmitry Shostakovich (1906–1975)**Symphony No. 8 C Minor Op. 65**

Shostakovich lived mostly as a Soviet citizen. On his native soil, especially during the era of Joseph Stalin from 1924 to 1953, the authorities utilized every art form as a vehicle for their propaganda. Many of artists who didn't meet the official Soviet style called "Socialist realism" were destined for purge, labor camp, torture or execution.

As for Shostakovich, the regime condemned his opera in 1936 so he rehabilitated himself

writing the “exemplary” Fifth Symphony (1937). Four years later, his Seventh penned in the midst of the Great Patriotic War (Eastern Front) received worldwide recognition as a masterpiece prefiguring the triumph against the Nazism. He then set to work on the Eighth in the summer of 1943 immediately after the Red Army’s victory at Stalingrad. However, contrary to the Party’s expectation, it didn’t turn out to be another patriotically exultant symphony with a triumphal finish. Enraged, the Party banned it from performance.

Like Beethoven’s Fifth (*Destiny*), Shostakovich’s Eighth begins in C minor and ends in C major, provided their conclusions are miles apart. The latter is cast unconventionally in five movements of which the last three are played without pause. Moreover, the anguished first movement in modified sonata form takes up approximately half of the whole symphony. At the beginning, low strings declare a dreadful three-note motif (C-B flat-C) which would play, in slightly different shapes, important roles in all other movements. After the next sarcastic scherzo movement, the machinelike third movement is shackled by a remorseless ostinato (persistently repeated phrase). The slow fourth movement in G-sharp minor, a passacaglia (continuous variation on a bass theme), is also haunted by a relentless repeat: tam-tam (gong) leads to the forceful statement of the theme followed by its eleven variations. The work attains C major at the opening of the finale in rondo sonata form where the inverted three-note motif (C–D–C) is the base of the idyllic main theme given by bassoon. The momentary optimism makes way for a most dispirited C-major close in symphonic history.

Kumiko Nishi

For a profile of Kumiko Nishi, see p. 54

The Subscription Concerts Program 2023–24

2023
09

A	Concert No. 1989	R. Strauss <i>Till Eulenspiegels lustige Streiche</i> , symphonic poem Op. 28 (<i>Till Eulenspiegel's Merry Pranks</i>)	Ordinary	Youth
	September 9 (Sat) 6:00pm 10 (Sun) 2:00pm	R. Strauss <i>Burleske</i> , D Minor* R. Strauss <i>Aus Italien</i> , symphonic fantasy Op. 16 (<i>From Italy</i>)	S 9,800 A 8,400 B 6,700 C 5,400 D 4,400 E 2,800	S 4,500 A 4,000 B 3,300 C 2,500 D 1,800 E 1,400
NHK Hall		Fabio Luisi, conductor Martin Helmchen, piano*		

B	Concert No. 1991	Mozart Symphony No. 29 A Major K. 201 Mozart Flute Concerto No. 2 D Major K. 314 Mozart Symphony No. 39 E-flat Major K. 543	Ordinary	Youth
	September 20 (Wed) 7:00pm 21 (Thu) 7:00pm		S 9,800 A 8,400 B 6,700 C 5,400 D 4,400	S 4,500 A 4,000 B 3,300 C 2,500 D 1,800
Suntory Hall		Ton Koopman, conductor Hiroaki Kanda (Principal Flute, NHKSO), flute		

C	Concert No. 1990	Wagner / Viegler <i>The Ring, An Orchestral Adventure</i>	Ordinary	Youth
	September 15 (Fri) 7:30pm 16 (Sat) 2:00pm		S 7,600 A 6,700 B 5,300 C 4,300 D 3,300 E 1,600	S 3,500 A 3,000 B 2,400 C 1,900 D 1,400 E 800
NHK Hall		Fabio Luisi, conductor		

2023
10

A	Concert No. 1992	Bruckner Symphony No. 5 B-flat Major	Ordinary	Youth
	October 14 (Sat) 6:00pm 15 (Sun) 2:00pm		S 9,800 A 8,400 B 6,700 C 5,400 D 4,400 E 2,800	S 4,500 A 4,000 B 3,300 C 2,500 D 1,800 E 1,400
NHK Hall		Herbert Blomstedt, conductor		

B	Concert No. 1994	Beethoven Piano Concerto No. 5 E-flat Major Op. 73, <i>Emperor</i> Brahms Symphony No. 3 F Major Op. 90	Ordinary	Youth
	October 25 (Wed) 7:00pm 26 (Thu) 7:00pm		S 9,800 A 8,400 B 6,700 C 5,400 D 4,400	S 4,500 A 4,000 B 3,300 C 2,500 D 1,800
Suntory Hall		Herbert Blomstedt, conductor Leif Ove Andsnes, piano		

C	Concert No. 1993	Nielsen <i>Aladdin</i> , suite Op. 34— <i>Oriental Festive March, Hindu Dance, The Market Place in Ispahan, Negro Dance</i> Sibelius Symphony No. 2 D Major Op. 43	Ordinary	Youth
	October 20 (Fri) 7:30pm 21 (Sat) 2:00pm		S 7,600 A 6,700 B 5,300 C 4,300 D 3,300 E 1,600	S 3,500 A 3,000 B 2,400 C 1,900 D 1,400 E 800
NHK Hall		Herbert Blomstedt, conductor		

2023
11

A	Concert No. 1997	Sviridov <i>Small Triptych</i> Prokofiev <i>War and Peace</i> , opera Op. 91— <i>Waltz in scene 2</i> Anton Rubinstein Ballet Music from <i>The Demon</i> , opera — <i>Dance of Girls</i> *	Ordinary	Youth
	November 25 (Sat) 6:00pm 26 (Sun) 2:00pm	Giinka Ivan Sussanin, opera—<i>Krakowiak</i> Rimsky-Korsakov <i>Snow Maiden</i>, suite Tchaikovsky / Fedoseyev <i>The Sleeping Beauty</i>, ballet suite	S 9,100 A 7,600 B 5,900 C 4,800 D 3,800 E 2,000	S 4,000 A 3,500 B 2,800 C 2,100 D 1,500 E 1,000
NHK Hall		Vladimir Fedoseyev, conductor *Changed from original program.		

B	Concert No. 1996	Sibelius <i>Tapiola</i> , symphonic poem Op. 112 Stravinsky Violin Concerto in D Sibelius Symphony No. 1 E Minor Op. 39	Ordinary	Youth
	November 15 (Wed) 7:00pm 16 (Thu) 7:00pm		S 9,800 A 8,400 B 6,700 C 5,400 D 4,400	S 4,500 A 4,000 B 3,300 C 2,500 D 1,800
Suntory Hall		Jukka-Pekka Saraste, conductor Pekka Kuusisto, violin		

C	Concert No. 1995	Bartók <i>Hungarian Pictures</i> Liszt <i>Hungarian Fantasy</i> * Kodály <i>Háry János</i> , suite	Ordinary	Youth
	November 10 (Fri) 7:30pm 11 (Sat) 2:00pm		S 7,600 A 6,700 B 5,300 C 4,300 D 3,300 E 1,600	S 3,500 A 3,000 B 2,400 C 1,900 D 1,400 E 800
NHK Hall		Gergely Madaras, conductor Tomoki Sakata, piano*		

(consumption tax included)

A NHK Hall
Sat. 6:00pm (doors open at 5:00pm)
Sun. 2:00pm (doors open at 1:00pm)

B Suntory Hall
Wed. 7:00pm (doors open at 6:20pm)
Thu. 7:00pm (doors open at 6:20pm)

C NHK Hall
Fri. 7:30pm (doors open at 6:30pm)
Sat. 2:00pm (doors open at 1:00pm)

2023
12

A Concert No. **2000**
December
16 (Sat) 6:00pm
17 (Sun) 2:00pm

NHK Hall

The 2000th Subscription Concerts
Mahler Symphony No. 8 E-flat Major,
Symphonie der Tausend (*Symphony of Thousand*)
Fabio Luisi, conductor Elena Stikhina, Valentina Farcas, Rie Miyake, sopranos
Olesya Petrova, Catriona Morison, altos Michael Schade, tenor
Luke Sutliff, baritone David Steffens, bass
New National Theatre Chorus, chorus
NHK Tokyo Children Chorus, children chorus

Ordinary	Youth
S 12,000	S 6,000
A 10,000	A 5,000
B 8,000	B 4,000
C 6,500	C 3,200
D 5,000	D 2,500
E 3,300	E 1,600

B Concert No. **1999**
December
6 (Wed) 7:00pm
7 (Thu) 7:00pm
Suntory Hall

Haydn Symphony No. 100 G Major Hob. I-100, *Military*
Liszt Piano Concerto No. 1 E-flat Major
Reger Variations and Fugue on a Theme by Mozart Op. 132

Fabio Luisi, conductor
Alice-Sara Ott, piano

Ordinary	Youth
S 9,800	S 4,500
A 8,400	A 4,000
B 7,600	B 3,300
C 5,400	C 2,500
D 4,400	D 1,800

C Concert No. **1998**
December
1 (Fri) 7:30pm
2 (Sat) 2:00pm

NHK Hall

Humperdinck *Hansel und Gretel*, opera—*Prelude* (*Hensel and Gretel*)
Berlioz *Symphonie fantastique*, Op. 14 (*Fantastical Symphony*)

Fabio Luisi, conductor

Ordinary	Youth
S 7,600	S 3,500
A 6,700	A 3,000
B 5,300	B 2,400
C 4,300	C 1,900
D 3,300	D 1,400
E 1,600	E 800

2024
01

A Concert No. **2001**
January
13 (Sat) 6:00pm
14 (Sun) 2:00pm

NHK Hall

Bizet / Shchedrin *Carmen Suite*, ballet
Ravel *Ma mère l'Oye*, suite (*Mother Goose*)
Ravel *La valse*, ballet

Tugan Sokhiev, conductor

Ordinary	Youth
S 9,100	S 4,000
A 7,600	A 3,500
B 5,900	B 2,800
C 4,800	C 2,100
D 3,800	D 1,500
E 2,000	E 1,000

B Concert No. **2003**
January
24 (Wed) 7:00pm
25 (Thu) 7:00pm
Suntory Hall

Mozart Sinfonia Concertante for Violin and Viola E-flat Major K. 364
Beethoven Symphony No. 3 E-flat Major Op. 55, *Eroica* (*Heroic Symphony*)
Tugan Sokhiev, conductor
Sunao Goko (Guest concertmaster, NHKSO), violin*
Junichiro Murakami (Principal Viola, NHKSO), viola
*Changed from initially scheduled.

Ordinary	Youth
S 9,800	S 4,500
A 8,400	A 4,000
B 7,600	B 3,300
C 5,400	C 2,500
D 4,400	D 1,800

C Concert No. **2002**
January
19 (Fri) 7:30pm
20 (Sat) 2:00pm

NHK Hall

Liadov *Kikimora*, légende Op. 63
Prokofiev / Sokhiev *Romeo and Juliet*, ballet suite

Tugan Sokhiev, conductor

Ordinary	Youth
S 7,600	S 3,500
A 6,700	A 3,000
B 5,300	B 2,400
C 4,300	C 1,900
D 3,300	D 1,400
E 1,600	E 800

2024
02

A Concert No. **2004**
February
3 (Sat) 6:00pm
4 (Sun) 2:00pm

NHK Hall

Johann Strauss II *Im Krapfenwald'l*,
polka française Op. 336 (*In Krapfen's Woods*)
Shostakovich Suite for Variety Orchestra No. 1
—*March, Lyrical Waltz, Little Polka, Waltz II*
Shostakovich Symphony No. 13 B-flat Minor Op. 113, *Babi Yar**
Michiyoshi Inoue, conductor
Evgeny Stavinsky, bass* Orpheï Drängar, male chorus*

Ordinary	Youth
S 9,800	S 4,500
A 8,400	A 4,000
B 7,600	B 3,300
C 5,400	C 2,500
D 4,400	D 1,800
E 2,800	E 1,400

B Concert No. **2006**
February
14 (Wed) 7:00pm
15 (Thu) 7:00pm
Suntory Hall

Ravel *Rapsodie espagnole* (*Spanish Rhapsody*)
Prokofiev Violin Concerto No. 2 G Minor Op. 63
Falla *El sombrero de tres picos*, ballet (complete) (*The Three-Cornered Hat*)*
Pablo Heras-Casado, conductor
Augustin Hadelich, violin
Tamayo Yoshida, soprano*

Ordinary	Youth
S 9,800	S 4,500
A 8,400	A 4,000
B 7,600	B 3,300
C 5,400	C 2,500
D 4,400	D 1,800

C Concert No. **2005**
February
9 (Fri) 7:30pm
10 (Sat) 2:00pm

NHK Hall

Wagner *Siegfried Idyll*
R. Strauss *Ein Heldenleben*, symphonic poem Op. 40 (*A Hero's Life*)

Eiji Oue, conductor

Ordinary	Youth
S 7,600	S 3,500
A 6,700	A 3,000
B 5,300	B 2,400
C 4,300	C 1,900
D 3,300	D 1,400
E 1,600	E 800

(consumption tax included)

Program C

- Concerts will have a duration of 60 to 80 minutes without an interval.
 - Pre-concert chamber music performance by the NHK Symphony Orchestra members will be held on stage (from 6:45pm on 1st day and from 1:15pm on 2nd day).

2024
04

A	Concert No. 2007	Schubert Symphony No. 4 C Minor D. 417 Brahms Symphony No. 1 C Minor Op. 68	Ordinary	Youth
	April 13 (Sat) 6:00pm 14 (Sun) 2:00pm		S 9,100 S 4,000 A 7,600 A 3,500 B 5,900 B 2,800 C 4,800 C 2,100 D 3,800 D 1,500 E 2,000 E 1,000	
NHK Hall		Marek Janowski, conductor		

B	Concert No. 2009	Schumann <i>Genoveva</i> , opera Op. 81—Overture Schumann Cello Concerto A Minor Op. 129 Schumann Symphony No. 2 C Major Op. 61	Ordinary	Youth
	April 24 (Wed) 7:00pm 25 (Thu) 7:00pm		S 9,800 S 4,500 A 8,400 A 4,000 B 6,700 B 3,300 C 5,400 C 2,500 D 4,400 D 1,800	
Suntory Hall		Christoph Eschenbach, conductor Kian Soltani, cello		

C	Concert No. 2008	Bruckner Symphony No. 7 E Major	Ordinary	Youth
	April 19 (Fri) 7:30pm 20 (Sat) 2:00pm		S 7,600 S 3,500 A 6,700 A 3,000 B 5,300 B 2,400 C 4,300 C 1,900 D 3,300 D 1,400 E 1,600 E 800	
NHK Hall		Christoph Eschenbach, conductor		

2024
05

A	Concert No. 2010	Panfilii <i>Abitare la battaglia</i> [Japan Premiere] Respighi <i>Fontane di Roma</i> , symphonic poem (<i>Fountains of Rome</i>) Respighi <i>Pini di Roma</i> , symphonic poem (<i>Pines of Rome</i>) Respighi <i>Feste Romane</i> , symphonic poem (<i>Roman Festivals</i>)	Ordinary	Youth
	May 11 (Sat) 6:00pm 12 (Sun) 2:00pm		S 9,800 S 4,500 A 8,400 A 4,000 B 6,700 B 3,300 C 5,400 C 2,500 D 4,400 D 1,800 E 2,800 E 1,400	
NHK Hall		Fabio Luisi, conductor		

B	Concert No. 2012	Brahms Piano Concerto No. 1 D Minor Op. 15 Nielsen Symphony No. 2 B Minor Op. 16, <i>The 4 Temperaments</i>	Ordinary	Youth
	May 22 (Wed) 7:00pm 23 (Thu) 7:00pm		S 9,800 S 4,500 A 8,400 A 4,000 B 6,700 B 3,300 C 5,400 C 2,500 D 4,400 D 1,800	
Suntory Hall		Fabio Luisi, conductor Rudolf Buchbinder, piano		

C	Concert No. 2011	Mendelssohn <i>A Midsummer Night's Dream</i> —Overture, Nocturne, Scherzo, Wedding March Mendelssohn Symphony No. 5 D Minor Op. 107, <i>Reformation</i>	Ordinary	Youth
	May 17 (Fri) 7:30pm 18 (Sat) 2:00pm		S 7,600 S 3,500 A 6,700 A 3,000 B 5,300 B 2,400 C 4,300 C 1,900 D 3,300 D 1,400 E 1,600 E 800	
NHK Hall		Fabio Luisi, conductor		

2024
06

A	Concert No. 2013	Scriabin <i>Rêverie</i> , Op. 24 Scriabin Piano Concerto F-sharp Minor Op. 20 Scriabin Symphony No. 2 C Minor Op. 29	Ordinary	Youth
	June 8 (Sat) 6:00pm 9 (Sun) 2:00pm		S 9,100 S 4,000 A 7,600 A 3,500 B 5,900 B 2,800 C 4,800 C 2,100 D 3,800 D 1,500 E 2,000 E 1,000	
NHK Hall		Keitaro Harada, conductor Kyohei Sorita, piano		

B	Concert No. 2015	Webern Passacaglia Op. 1 Schönberg Violin Concerto Op. 36 J. S. Bach / Webern Ricercata Schubert Symphony No. 5 B-flat Major D. 485	Ordinary	Youth
	June 19 (Wed) 7:00pm 20 (Thu) 7:00pm		S 9,800 S 4,500 A 8,400 A 4,000 B 6,700 B 3,300 C 5,400 C 2,500 D 4,400 D 1,800	
Suntory Hall		Masato Suzuki, conductor Isabelle Faust, violin		

C	Concert No. 2014	Ibert <i>Escales (Ports of Call)</i> Ravel Piano Concerto for the Left Hand Debussy <i>Nocturnes*</i>	Ordinary	Youth
	June 14 (Fri) 7:30pm 15 (Sat) 2:00pm		S 7,600 S 3,500 A 6,700 A 3,000 B 5,300 B 2,400 C 4,300 C 1,900 D 3,300 D 1,400 E 1,600 E 800	
NHK Hall		Nodoka Okisawa, conductor Denis Kozhukhin, piano The Philharmonic Chorus of Tokyo, female chorus*		

All performers and programs are subject to change or cancellation depending on the circumstances.

(consumption tax included)

モノが語る 声を届ける

骨董・古美術月刊誌「目の眼」

6月号

棟方志功のデザイン

もう一つの藝業

7月号 | 6/15 発売

白磁の源泉

中国陶磁の白のルーツ

毎月15日発売 | 1,650円税込

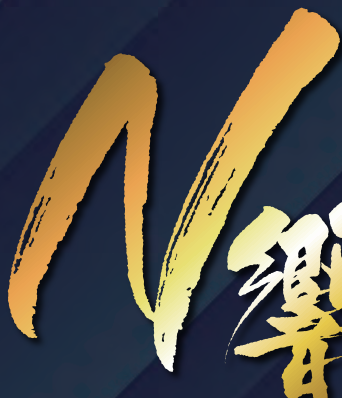


写真：月刊「目の眼」4月号より



ME NO ME
1977
目の眼

最新号 WEB 無料公開中
menomeonline.com



山下一史 〈指揮〉

金川真弓 〈ヴァイオリン〉

NHK交響楽団 〈管弦楽〉

ベストクラシックス



©ai ueda

©Kaupo Kikkas

チャイコフスキー

ヴァイオリン協奏曲 二長調 Op.35
交響曲 第4番 へ短調 Op.36

「帝王」カラヤンの晩年にアシスタントを務めていたマエストロ山下一史と2019年チャイコフスキー国際コンクール第4位入賞で新世代の偉才として世界から注目を集めるヴァイオリニスト金川真弓が葛飾で饗宴！

熱く壮麗なタクトと重厚なN響サウンドで奏でる情熱のチャイコフスキーをお楽しみください。



2023年 7月 1日[土] 16:00開演 (15:15開場)

かつしかシンフォニーヒルズ モーツァルトホール

【全席指定】S席 ¥6,800 A席 ¥5,800 B席 ¥3,000 ※B席残席わずか

チケット予約
お問い合わせ

かつしかシンフォニーヒルズ ☎03-5670-2233 <https://www.k-mil.gr.jp>
〒124-0012 東京都葛飾区立石6-33-1 ※京成線青砥駅下車徒歩5分

※税込・未就学児入場不可 ※モーツァルトホール バルコニー席はステージが見づらい場合や聞きづらい場合があります
※内容は都合により変更になる場合があります ※本公演は催物開催制限に基づき、感染拡大防止策を講じた上で実施いたします

チケット好評販売中

The 20th
Anniversary

NHK 音楽祭

MUSIC FESTIVAL

～名曲と出会う場所～

2023

MEET the CLASSICS

11月20日(月)
19:00開演

共催：NHK交響楽団
協賛：岩谷産業

NHK交響楽団

指揮：ウラディーミル・フェドセーエフ

児童合唱：東京少年少女合唱隊

チャイコフスキー/
バレエ音楽「くるみ割り人形」作品71 全曲

巨匠フェドセーエフが
悠揚迫らざるテンポで描く、
チャイコフスキーの名曲を
5年ぶりに全曲演奏！



© Oleg Nachinkin



写真提供：NHK交響楽団



© Laura Stevens



9年ぶりの来日！新音楽監督 天才シャニとともに
伝統の音色が響き、ここを播さざる

11月23日(木・祝)
16:00開演

イスラエル・ フィルハーモニー 管弦楽団

指揮：ラハフ・シャニ

バイオリン：庄司紗矢香

ツヴィ・アブニ／祈り

ベートーベン／
バイオリン協奏曲 二長調 作品61

ベートーベン／
交響曲第7番 一長調 作品92

一般販売 6月27日(火) 10:00～

NHKホール

入場料(消費税込)

公演	公演日	開演	観覧 料定	SS席	S席	A席	B席	C席	D席	U-25席
NHK交響楽団	11/20(月)	19:00	21:00	10,000	8,500	7,000	5,500	4,500	3,000	1,500
イスラエルフィルハーモニー管弦楽団	11/23(木・祝)	16:00	18:00	21,000	18,000	12,000	8,000	6,000	4,500	2,000

割引チケットのご案内 同時に2公演お申込みいただいた場合、料金が5%割引になります。取り扱いは、NHKプロモーションの「インターネット受付」電話予約のみです。詳しくは、NHKプロモーションまでお問い合わせください。



●お問い合わせ
ハローダイヤル 050-5541-8600 / 9:00～20:00(無休)
NHKホームページ <http://nhk.jp/event>

NHKプロモーション
音楽祭係 TEL. 03-3468-7736 / 平日11:00～17:00
<https://www.nhk-p.co.jp/>

主催：NHK、NHKプロモーション

いつまでも耳に残る
極上の旋律に、
心躍るひとときを。

N

響音

名曲コンサート
2023

指揮

下野竜也

Tatsuya Shimono, conductor

ピアノ

小林海都

Kaito Kobayashi, piano

ドヴォルザーク

序曲「謝肉祭」作品92

Dvořák | Carnival, overture Op. 92

モーツァルト

ピアノ協奏曲 第23番 イ長調 K. 488

Mozart | Piano Concerto No. 23 A Major K. 488

ドヴォルザーク

交響曲 第3番 ト長調 作品88

Dvořák | Symphony No. 8 G Major Op. 88

Vyhlička Máj (チェコ、テレティーン村) からのモルダウ川の眺め

2023年9月28日[木] 7:00pm | サントリーホール

■ 発売開始: 5月17日[水] 11:00 am ■ N響定期会員先行発売: 5月11日[木] 11:00 am

■ 料金 (税込)

一般		ユースチケット(25歳以下)	
SS	¥8,500	SS	¥4,200
S	¥6,500	S	¥3,200
A	¥5,000	A	¥2,500
B	¥3,500	B	¥1,700
C	¥2,500	C	¥1,200

※定期会員は一般料金から10%割引

■ 前売所

- WEBチケットN響: 6月27日[火]まで <https://ticket.nhkso.or.jp>
6月29日[木]から <https://nhkso.pia.jp>
- N響ガイド: 6月27日[火]まで 03-5793-8161
6月29日[木]から 0570-02-9502
- サントリーホール チケットセンター: 0570-55-0017
suntory.jp/HALL/
- チケットぴあ: pia.jp/t/nhkso
- e+ (イープラス): eplus.jp/nhkso
- ローソンチケット: l-tike.com/nhkso

[お問い合わせ]

N響ガイド: 6月27日[火]まで 03-5793-8161

6月29日[木]から 0570-02-9502

(営業日・営業時間はN響ホームページをご覧ください)

※ユースチケットはN響ガイドに電話でお申し込みください(7月上旬よりWEBチケットN響でもご購入いただけます)。事前に年齢確認のための登録手続きが必要となります。詳しくはN響ホームページでご確認ください。 ※定期会員割引・先行発売は、WEBチケットN響、N響ガイドのみの取り扱いとなります。 ※早い者勝ちについてはN響ガイドにお問い合わせください。 ※N響ガイドでのお申し込みは、公演日の営業日前となります。 ※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合のぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。 ※未就学児のご入場はお断りしています。 ※公演に関する最新の情報はN響ホームページでご確認ください。

特別協賛:



株式会社 明電舎

主催: NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO

指揮：ライアン・ウィグレスワース
Ryan Wigglesworth, conductor

尺八：藤原道山
Dozan Fujiwara, shakuhachi

ヴァイオリン：金川真弓
Mayumi Kanagawa, violin

三味線：本條秀慈郎
Hidejiro Honjoh, shamisen

管弦楽：NHK交響楽団
NHK Symphony Orchestra, Tokyo

NHKSO
NHK SYMPHONY ORCHESTRA
TOKYO

TOKYO
OPERA
CITY

N響 MUSIC TOMORROW 2023

June 27 (Tuesday) 7:00pm
Otaka Award Ceremony / Pre-Concert Talk 6:30pm
Tokyo Opera City Concert Hall

2023年6月27日 火 7:00pm | 尾高賞授賞式・プレトーク 6:30pm
東京オペラシティ コンサートホール

藤倉 大 / 尺八協奏曲(2021) [第70回「尾高賞」受賞作品]
Fujikura / Shakuhachi Concerto [The 70th Otaka Award Work]

一柳 慧 / ヴァイオリンと三味線のための二重協奏曲(2021) [第70回「尾高賞」受賞作品]
Ichiyanagi / Double Concerto for Violin and Shamisen with Strings and Percussion [The 70th Otaka Award Work]

スルンカ / スーパーオーガニズム(2022)
[NHK交響楽団 / ベルリン・フィル / ロサンゼルスフィル / パリ管弦楽団 / チェコフィル共同委嘱作品・世界初演]
Srnka / Superorganisms [Co-commission Work for NHK Symphony Orchestra, Berliner Philharmoniker, LA Phil, Orchestre de Paris and Czech Philharmonic / World Première]

チケット発売中

チケット料金(税込)

◎ 一般 | S:3,500円 / A:2,500円 / B:1,500円
◎ WEBチケット N響 特別料金 | S:3,000円 / A:2,000円 / B:1,000円

・車いす席についてはN響ガイドにお問い合わせください
・N響ガイドでのお申し込みは、公演日の1営業日前までとなります

前売所

- ・WEBチケット N響(手数料無料) : <https://ticket.nhkso.or.jp>
- ・N響カネド : 03-5793-8161
- ・東京オペラシティ チケットセンター : 03-5353-9999
- ・チケットぴあ : pia.jp/t/nhkso
- ・e+(イープラス) : eplus.jp/nhkso
- ・ローンチケット : l-tike.com/nhkso

アップグレードする3つの新作たち。
峻厳な遺作、趣深い和楽器協奏曲、
スター作曲家の世界初演作

今年のMusic Tomorrowでは、前半に本シリーズの軸となる尾高賞受賞作品2作、後半にミロ斯拉フ・スルンカの《スーパーオーガニズム》が演奏される。《ヴァイオリンと三味線のための二重協奏曲》は一柳の絶筆となったが、遺作への贈賞は今回が初となる。時代の先端をつねに志向し、晩年に至っても若手音楽家と交流し続けた一柳の功績を思い返しつつ、ヴァイオリン、三味線、管弦楽が絶妙な距離感で対峙する。本作の峻厳な音世界を堪能したい。古典的レパートリーでの繊密かつ情感ゆたかな演奏を得意とする若手、金川真弓の演奏も注目される。

他方今年46歳になる藤倉は、死去時の一柳のほぼ半年の年齢でありながら、今回の受賞が4作品目となる。《尺八協奏曲》では、尺八の伸びやかかつ真摯なモノログ、それに寄り添い多層的で広がりのある響きを作りだす管弦楽とのやり取りが味わい深い。邦楽器奏者の近年の活躍ぶりを証する2作だ。

チェコ出身のスルンカは2016年、ベトレンコが指揮し、ヴァイゾンとハンソングが主役を歌って初演されたオペラ《兩極》の成功により、一躍スターダムにのし上がった。同郷のドヴォルザークとヤナーチェクに敬意を払いつつ、一作ごとに作曲法を模索し、構造と響きを緻密に設計するスルンカの音楽はしかし、彩霊のような浮遊感と中間色をたたく、ときに夢幻性さえ漂わせる。ヨーロッパ現代音楽界の最前線に立つ作曲家の新作が世界で初めて鳴り響く、希有な瞬間に立ち会いたい。

平野貴俊(音楽学・音楽評論)

- 2時間超の公演となります(休憩20分あり)
- 未就学児の入場はお断りしています
- チケットのご購入・ご来場の際は、N響ホームページに掲載の感染症予防対策についてのご案内(下記のURLのおよびQRコードのリンク先)を必ずお読みください
- やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません

主催：NHK / NHK交響楽団
共催：公益財団法人 東京オペラシティ文化財団
助成：公益財団法人 三菱UFJ信託芸術文化財団 / 公益財団法人 アフィニス文化財団

nhkso.or.jp | Follow us on



nhkso.or.jp/news/20200710_2.html

ピアノ
北村 朋幹
Tomoki Kitamura, piano

N響 「夏」

Summer Concert
2023

2023 東京公演

NHK Symphony Orchestra, Tokyo

主催：NHK / NHK交響楽団 協賛：岩谷産業株式会社

2023年 7月21日(金) 7:00pm

NHKホール

Friday, July 21, 2023 7:00p.m. NHK Hall

ウェーバー

歌劇「魔弾の射手」序曲

Weber *Der Freischütz*, opera-Overture

モーツァルト

ピアノ協奏曲 第24番 ハ短調 K. 491

Mozart *Piano Concerto No. 24 C Minor* K. 491

シューマン

交響曲 第3番 変ホ長調 作品97「ライン」

Schumann *Symphony No. 3 E-flat Major* Op. 97,
Rheinische Sinfonie

ふたりの若き俊英が贈る

魅惑のドイツ音楽

指揮

熊倉 優

Masaru Kumakura, conductor

©堀田力丸

発売開始 5月17日(水) 11:00am

(N響定期会員先行発売：5月11日(木)11:00am)

料金(税込) ※定期会員は一般料金から10%割引

[一般] S: ¥7,300 A: ¥5,300 B: ¥3,300 C: ¥2,100

[ユースチケット] S: ¥5,200 A: ¥3,800 B: ¥2,350 C: ¥1,500
(25歳以下)

お問い合わせ ※営業日・営業時間はN響ホームページをご覧ください

N響ガイド [6月27日(火)まで] 03-5793-8161

[6月29日(木)から] 0570-02-9502

Follow us on

nhkso.or.jp

[Twitter](#) [Facebook](#) [Instagram](#) [YouTube](#) [note](#)

水素で世界を動かせ。

Iwatani
岩谷産業株式会社



N響定期を75分で「いいとこどり」!

N響

NHKSO
Welcome
Concert

ウェルカム・コンサート

2023.8.3 [木] 7:00pm
(休演なし/終演予定8:15pm)
NHKホール



指揮 熊倉 優



指揮：熊倉 優 フルート：神田寛明 (N響首席フルート奏者)
ナビゲーター：大林奈津子

発売開始 5月17日(水) 11:00am (N響定期会員先行発売:5月11日(木) 11:00am)

前売所

◎WEBチケットN響 6/27(火)まで <https://ticket.nhks.or.jp>
6/29(木)から <https://nhkso.pia.jp>

◎N響ガイド 6/27(火)まで 03-5793-8161, 6/29(木)から 0570-02-9502

◎チケットぴあ pia.jp/t/nhks ◎e+ (イープラス) eplus.jp/nhks

◎ローソンチケット 1-tike.com/nhks

※ユースチケットはN響ガイドに電話でお申し込みください(7月上旬よりWEBチケットN響でもご購入いただけます)。事前に年齢確認のための登録手続きが必要となります。詳しくは、N響ホームページをご覧ください。

※定期会員割引・先行発売は、WEBチケットN響・N響ガイドのみの取り扱いとなります。※車いす席についてはN響ガイドにお問い合わせください。

※N響ガイドでのお申し込みは、公演日の1営業日前となります。※やむを得ない理由で出演者や曲目が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。※未就学児のご入場はお断りしています。

※公演に関する最新の情報はN響ホームページでご確認ください。

お問い合わせ：N響ガイド 6/27(火)まで 03-5793-8161 (営業日・営業時間はN響ホームページ
6/29(木)から 0570-02-9502 ご確認ください)

主催：NHK/NHK交響楽団 Follow us on no+e nhkso.or.jp

2023年9月開幕の「N響2023-24シーズン定期公演」前に行われるのがこのコンサート。選りすぐりの聴きどころを75分間にギュッと詰め込んでお贈りします。オーケストラは初めてという方、どの演奏会に行くか迷っている方、長年N響定期会員を続けられてきた方、とにかく手取り早くオーケストラの名曲を楽しみたい方、みんなウェルカムです。みんな連れだってNHKホールに足をお運びください。

定期公演ってなあに？

プロのオーケストラにとって「定期公演」は活動の中心となる大切なコンサート。N響では1927年に第1回が行われ、2023-24シーズン中の2023年12月に第2000回を迎えます。A・B・Cの3つのシリーズ毎に年間9回各2日ずつ、合計年間54公演にわたって世界的な指揮者・ソリストたちと演奏を繰り広げます。

コダーイ/組曲「ハーリ・ヤーノシュ」—「ウィーンの音楽時計」(11月C)

R. シュトラウス/交響的幻想曲「イタリアから」

—第4楽章「ナポリの人の生活」(9月A)

チャイコフスキー/バレエ音楽「眠りの森の美女」—「ワルツ」(11月A)

モーツァルト/フルート協奏曲 第2番 ニ長調 — 第2楽章(9月B)

ワーグナー/楽劇「ワルキューレ」—「ワルキューレの騎行」(9月C)

ニルセン/アラジン組曲—「イスファハンの市場」(10月C)

イベール/寄港地—「パレンシア」(6月C)

レスピーギ/交響詩「ローマの祭り」—「主顕祭」(5月A)

料金(税込/全席指定)

1階から3階まで1ランク設定
良席はお早めに
一般：¥1,800 / 定期会員：¥1,200

25歳以下はさらにお得 /
ユースチケット(25歳以下) ¥500

お得にみんなでNHKホールに /
ウェルカム・ペアチケット
(2枚1組)：¥2,000

※一般・定期会員共通料金



夏だ！祭りだ！！

N響ほっと コンサート

NHKSO HOTTO CONCERT

みんなで感じよう♪にほんの夏♪せかいの夏♪



N響メンバーによる 楽器体験工房

オーケストラの楽器をN響メンバーとっしょに
さわって音を出してみよう

さあ、
ロビー集合！



詳しくはN響ホームページ、
公式Twitterで後日お知らせします

2023年8月6日(日) 3:30pm
NHKホール(東京・渋谷)



指揮：三ツ橋敬子

©Earl Ross



ナビゲーター・歌：小野あつこ



管弦楽：NHK交響楽団(コンサートマスター：篠崎史紀、郷古 廉)

【にほんの夏】

外山 雄三：「管弦楽のためのラプソディ」から「八木節」

久石 譲：オーケストラストーリーズ“となりのトトロ”
語り：小野あつこ

【せかいの夏】

ピアソラ：「ブエノスアイレスの四季」から“夏”
ヴァイオリン独奏：郷古 廉(N響ゲスト・コンサートマスター)

ヘンデル：「水上の音楽」から“アラ・ホーンパイプ”

アルヴェーン：スウェーデン狂詩曲 第1番「夏至の徹夜祭」(抜粋)

J. シュトラウス2世：ポルカ「クラップフェンの森で」

グロフェ：組曲「グランド・キャニオン」から“山道を行く”

ファリャ：歌劇「はかない人生」から“スペイン舞曲” ほか

発売開始 2023年5月17日(水) 11:00am
(N響定期会員先行発売:5月11日(木)11:00am)

前売所

◎WEBチケットN響 6/27(火)まで <https://ticket.nhkso.or.jp>

6/29(木)から <https://nhkso.pia.jp>

◎N響ガイド 6/27(火)まで 03-5793-8161

6/29(木)から 0570-02-9502

◎チケットぴあ pia.jp/t/nhkso

◎e+(イープラス) eplus.jp/nhkso

◎ローソンチケット 1-tike.com/nhkso

主催：NHK/NHK交響楽団

※25歳以下(ユースチケット)はN響ガイドに電話でお申し込みください(7月上旬よりWEBチケットN響でもご購入いただけます)。事前には年齢確認のための登録手続きが必要となります。詳しくはN響ホームページでご確認ください。

※定期会員割引・先行発売は、WEBチケットN響・N響ガイドのみ取り扱いません。

※車いす席についてはN響ガイドにお問い合わせください。※小・中学生のチケットはすべての前売所でご購入いただけます。

※N響ガイドでのお申し込みは、公演日の1営業日前となります。※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、

公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。

※小学生は、保護者の方と一緒にお越しください。※未就学児のご入場はお断りしています。

※公演に関する最新の情報はN響ホームページでご確認ください。

お問い合わせ：N響ガイド 6/27(火)まで 03-5793-8161 (営業日・営業時間はN響ホームページ
6/29(木)から 0570-02-9502 でご確認ください)

Follow us on [facebook](https://www.facebook.com/nhkso) [twitter](https://twitter.com/nhkso) [instagram](https://www.instagram.com/nhkso) [youtube](https://www.youtube.com/nhkso) [line](https://line.me/tv/nhkso) [nhkso.or.jp](https://www.nhkso.or.jp)



脱炭素の道へ。
水素とLPガスが加速する。



2050年、温暖化ガス排出実質ゼロ社会の実現を目指して。

イワタニはLPガス・**Maruigas**の全国330万世帯以上の販売ネットワークを活かし、脱炭素の主役となる水素を暮らしと産業にお届けする準備を進めています。

さらに、環境への負荷を減らすために、水素やアンモニアを混合した低炭素なLPガスの開発をはじめ、廃プラスチックやバイオガス由来の水素やLPガス製造、新しいLPガス合成技術などを推進。

私たちは、水素とLPガスで確かな答えを持つ

クリーンエネルギーのトップランナーとして走り続けます。

水素&LPガスシェアNo.1*

*国内における販売シェア(ただし、水素はオンサイト・パイピングを除く。2022年5月現在、自社調べ)

Iwatani
岩谷産業株式会社